

第 I 部 イギリスにおける資格制度

第1章 資格枠組みの変遷

イギリスにおける資格制度を鳥瞰すると、いくつかの大きな節目がある。

その1つは、1986年に導入された全国職業資格(National Vocational Qualifications : NVQ)制度であろう。それ以前、職業資格については数多くの資格授与機関(Awarding Organization : AO)が審査、認定を行っていた。1980年代には、大小約600のAOが認定する資格・認定証の数は約6,000種に及んでいたといわれている。そのため、AOによって認定される資格の水準にばらつきがあったり、内容の重複等があったりして資格の全国的な統一基準が欠落し、利用者を混乱させていた。

このような状況を是正するために、政府は資格の標準化と質の確保を図ること、併せて職場での労働者の能力評価を重視する新しい職業資格として、5段階のレベルと11の分野からなるNVQ資格制度を導入した。

また、既存の資格の水準の区分認定を進めて、多種多様な職業資格をこの5段階のレベルに位置づける枠組みを作ってNVQ資格に収斂させた。

もう1つは、全国資格枠組み(National Qualifications Framework : NQF)の構築である。

1996年、Dearingによって16~19歳を対象とした資格の見直しが提唱され、職業資格と教育資格の統一的な資格枠組みの確立の必要性が指摘された。このDearingの報告書を受けて1997年、当時の資格・カリキュラム総局(Qualifications and Curriculum Authority : QCA)は、教育資格、職業資格及び職業関連資格を1つの資格枠組みの中に統合した包括的な資格体系としてNQFを構築した。

第1節 全国資格枠組み(National Qualification Framework : NQF)の構築

図表I-1に示すNQFは、①教育訓練へのアクセスや動機づけを高め、達成度を高めること、②国が定める教育訓練の全国目標の達成に向けた明確なルートを示し、生涯教育を促進すること、③広範な領域のニーズに合った資格の提供を確実にし、不必要な重複を避けること、④資格授与の適切性と誠実性に関して信頼を高めること等を狙いとして設定された。

また、NQFに組み込まれている資格とレベルは、教育訓練の達成目標として掲げられており、国民の教育レベルの向上の指針となっていた。

NQFは教育資格、職業関連資格、職業資格及び高等レベル資格で構成されている。そして、アカデミックな学力を評価する教育資格と実際の職場での職務遂行能力を評価する職業資格の価値を相対的に位置づけ、レベルの関連付けをしている。NQFが両者の対応を示す目安となったことにより、NQFが構築された1997年以降、NVQの取得者数が大幅に増えるといったことにもつながった。

図表 I - 1 1997年に構築された全国資格枠組み（NQF）

資格のレベル	教育資格	職業関連資格	職業資格
レベル5	高等レベル資格		NVQレベル5
レベル4			NVQレベル4
レベル3	GCE-Aレベル	職業的Aレベル (上級GNVQ)	NVQレベル3
レベル2	GCSEグレードA～C	中級GNVQ	NVQレベル2
レベル1	GCSEグレードD～G	初級GNVQ	NVQレベル1
エントリーレベル	学力証書		

出所：Data News issue 20,2002 (QCA)

教育資格と職業関連資格及び職業資格の対応の目安は、以下のとおりである。

初級 GNVQ：GCSE⁴グレード D～G の 4 科目及び NVQ レベル 1 に相当する。

中級 GNVQ：GCSE グレード A～C の 4 科目及び NVQ レベル 2 に相当する。

上級 GNVQ：GCE-A レベル⁵の 1 科目及び NVQ レベル 3 に相当する。

GNVQ は 1992 年に導入された資格であったが、2002 年に GCSE に組み込まれている。

なお、中等教育までの教育資格、職業関連資格及び職業資格については QCA⁶が一元的に管理運営をし、大学等の高等教育機関が授与する高等レベル資格については、高等教育品質保証機構（Quality Assurance Agency for Higher Education：QAA）が管理していた。

第 2 節 欧州資格枠組みに対応した NQF への改変

2006 年、それまでレベル 4～5 に格付けられていた高等レベル資格を細分化して 9 段階レベルとした NQF に改変された。この改変の背景には欧州資格枠組み（European Qualifications Framework for Lifelong Learning：EQF）の影響がある。EQF は、欧州各国が生涯学習のために互いにその国の資格制度をリンクさせることを可能にする欧州共通の基準枠組みである。各国が EQF に対応した自国の NQF を構築すれば、人が移動する際に、個人が取得している資格を相対的に評価することができ、教育や職業能力を評価する際の目安となる。EU では第 1 段階として、各国は 2010 年までに EQF に適

⁴ General Certificate of Secondary Education－中等教育修了資格。

⁵ General Certificate of Education - Advanced level－高等教育への進学のための教育資格。

⁶ 組織の再編によって、2011 年からは QCA に代わって資格・試験監査機関（Office of Qualifications and Examinations Regulation：Ofqual）が、中等教育までの教育資格、職業関連資格及び職業資格を管理運営している。

合する国内の資格制度を整備する。そして、2012年までに国内の個別の資格をEQFと参照可能にすることを加盟国に求めた（ただし、義務ではない）。このEUの要請に基づいて図表I-2に示すNQFが再構築された。

図表I-2 NQFとNVQ及び高等教育資格の対応関係（各レベルの資格の例）

資格のレベル	NQF	高等教育資格	
		NVQ	
レベル8	Specialist awards	レベル5	博士課程修了
レベル7	Diploma in Translation, BTEC advanced professional awards		修士課程修了
レベル6	National Diploma in Professional Production Skills	レベル4	学士課程修了
レベル5	BTEC higher national diplomas		Diploma of Higher Education, Foundation Degree
レベル4	Key Skills レベル4		Certificates of Higher Education
レベル3	GCE-Aレベル、International Baccalaureate, Key Skillsレベル3、Cambridge international awards	レベル3	
レベル2	GCSEグレードA～C、Skills for Life、Key Skillsレベル2	レベル2	
レベル1	GCSEグレードD～G、Skills for Life、Key Skillsレベル1	レベル1	
入門レベル	入門レベルCertificate、入門レベルのSkills for Life		

注：2006年に構築されたNQFである。GCSE、GCE-Aレベルは教育資格である。なお、職場での経験を問わず、継続教育カレッジ等でのコースを受講することで取得できる職業関連資格として1992年に導入されたGNVQは、現在はGCSEに組み込まれている。Skills for Lifeは、読み・書き・計算能力に関する基礎技能をいう。

Key Skills：①IT関連スキル、②コミュニケーションスキル、③数の応用スキル、④他者との協働スキル、⑤問題解決スキル、⑥学習、職務遂行スキル

出所：職業能力開発総合大学校刊「諸外国における職業教育訓練を担う教員・指導員の養成に関する研究」P86

このNQFでは、中等教育までの教育資格、職業関連資格、専門資格、高等教育資格がレベル1～レベル8の中に格付けられている。一方、NVQのレベル区分は従前のレベル1～レベル5のままに据え置いた。NVQレベル5はNQFのレベル7～レベル8に、そして、NVQレベル4はNQFのレベル4～レベル6に格付けられている。

第3節 NQFからQCF（Qualifications and Credit Framework）への移行

NQFは各種の資格を相対的に比較できるなど多くの利点があったが、認証されてNQF

に格付けられている資格には様々な種類があってわかりにくく、また、資格を取得するのに要する学習時間が判断できないといった問題点が指摘されていた。2006年12月に提出された Leitch 報告書では、イギリス労働者のスキル向上を課題とし、2020年を目標とする「世界水準のスキル開発」が提案された。特に、在職者・事業主に対する職業訓練施策が十分に成果をあげるためには、ニーズに即した訓練プログラムが策定され、在職者が受講した学習機会の成果が小さな単位であっても認証可能とするような柔軟な学習・資格認証の仕組みが必要であることを指摘した。この指摘を踏まえてイングランド地方では、2008年6月に2年間にわたる実験を終えて、2009年12月にEQFへの準拠報告がEUに行われ、図表I-3に示すQCFが導入された。

QCFの導入に合わせて、従前の職業関連資格とNVQの見直し・改定作業が行われ、QCFへの格付けが行われた。

図表 I-3 QCF (Qualifications and Credit Framework) の構成

レベル	Award(1~12単位)	Certificate(13~36単位)	Diploma(37単位以上)
8			
7			
6			
5			
4			
3			
2			
1			
入門			

資格のサイズ(単位数:Credit)

注：2009年に導入された資格枠組み

QCFはレベルと資格のサイズ(単位数:Credit)によって構成されている。

資格のサイズには、Award、Certificate、Diplomaの3つがあり、次のような構成になっている。

- ・Award(1~12単位)：最小サイズの資格で、通常、1つのユニットで構成される。初めて資格を取得する人や職業分野への入門者に適している資格である。また、職業訓練において、1つのユニットだけの内容を学習させたい(あるいは学習したい)場

合などに適している。

- ・ **Certificate** (13～36 単位) : 中級サイズの資格で、3 ユニットくらいで構成される。職場の仕事で中核となる複数のテーマについて学習するのに適した資格である。
- ・ **Diploma** (37 単位以上) : 最も大きなサイズの資格で、通常、必須ユニットと選択ユニットで構成される。キャリアで必要となる多様なテーマについて総合的に学習するのに適した資格である。
- ・ 1 クレジット (**Credit** : 単位) は、10 時間の学習量に相当する。したがて、資格のサイズ (単位数 : **Credit Value**) で、その資格を取得するのにどれ位の時間を要するか (学習量) の見当がつけられる。

また、クレジットは複数の資格の間で移動可能で、かつ、クレジットを集めることによって柔軟に資格の取得に結びつくという利点がある。

従来、フル規格の資格として構成されていた内容を「サイズ」の違う 3 つの資格に分けることによって、レベルは同じでも簡易版の資格が取得できるようにしたものが **QCF** 資格であるといえる。**QCF** 資格は特に低技能者の能力開発、雇用戦略として政府の職業資格改革政策の中心施策の 1 つとなっている。

第2章 NVQの変遷

1986年に導入されたNVQは、労働者の技能向上や能力開発に大きな役割を果たしてきている。しかし、NVQが導入されて27年が経過し、また、2009年にQCFが導入されたこともあってNVQは大きな節目を迎えているといえる。

NVQは業種別技能委員会（Sector Skills Council：SSC）が開発した全国職務基準（National Occupational Standard：NOS）に基づいて構築されている。NOSは5年ごとに見直し・改定が行われてきており、必然的にNVQの内容もNOSの見直し・改定に合わせて変わってきている。その中でも、2010年までにQCFの枠組みの中に位置づけるために行われた見直し・改定が一番大きな変革であったように思われる。

ここでは、NVQの内容がどのように変わってきたのか、エンジニアリング・製造技術分野のNVQを例にとって内容の変化を考察する。

第1節 2002年頃のNVQの構成（Engineering・製造技術分野のNVQの事例）

図表I-4はNVQ工業生産Level2の内容構成を示す。

このNVQは2003年頃まで、アプレントイスシップ・プログラムや労働者の能力開発によく使われていたものである。

当該NVQは3つの必須ユニットと1つの選択ユニットを習得することによって、フル規格のNVQが取得できる構成になっている。

この当時のユニットには、非常に多くのエレメント（ユニットの内容をいくつかの仕事の要素に細分化したもので、NVQの最小構成単位である。）を含んだものが多くあって、習得に多くの時間がかかり、かつ、エレメントの内容に対応した多種多様な機械や機材を準備することが難しかったことが想像される。

例えば、選択ユニットU1026958「工作機械による工業製品の切削加工」では、フライス盤、ボール盤、倣い加工機、ホブ盤、歯車研削盤、シャーリング・マシン、中ぐり盤（横型、立形）、研削盤（円筒、平研）切断機等、13種類の工作機械を使っでの作業が含まれている。

また、U1026968「工業製品の組立て作業」では、電子部品の組立て、メカトロ製品の組立て、構造物鉄鋼の組立て、配管組立て作業、厚板の組立て、木工組立て作業、型の組立て、車体の組立て、車両の組立て、自動車の内装組立て等、17分野の組立て作業で構成されており、とにかく非常に幅広い作業分野をカバーする構成になっている。このようなユニットが他にも多数あり、1つのユニットを習得するのに多種多様な機械や機材を必要とする構成になっていることが、この当時のNVQの特徴といえる。

図表 I-4 NVQ 工業生産 (Engineering Production) Level 2、コード No. Q1027430

区分	No.	ユニット名	ユニットに含まれるエレメント
必須 ユニ ット	U1026992	定型的なエンジニアリング作業のための 資材の準備	定型的なエンジニアリング作業のための準備
	U1026995	作業後の作業場所の整理・整頓	作業場所を元の状態の戻し、整理・整頓
	U1027003	作業行動の効果への貢献	意思の伝達と自己啓発
選 択 ユ ニ ット	U1026955	コンピュータ制御機器の操作	1.CNC機械による機械加工、2.CNC機器による検査、3.プログラム 制御機器の操作、4.ロボテックス
	U1026956	手工具による工業製品の加工	1.作業台での調整作業、2.切削と溝加工、3.手工具による製作
	U1026958	工作機械による工業製品の切削加工	1.旋盤加工、2.フライス盤加工、3.ボール盤加工、4.倣い加工、5.歯 車の研削加工、6.シャーリング加工、7.穴ぐり加工、8.機械による熱 切断、9.放電加工、10.ホブ盤による歯切り、11.研削加工、12.歯車 のシェービング、13.切断加工
	U1026960	手成形による工業製品の製作	1.鋳造(中子の製作)、2.鋳造(鋳型の製作)、3.FRPを用いた型製 作
	U1026962	機械加圧式成形作業による工業製品の 製作	1.プレス加工、2.圧延成形、3.絞り加工、4.機械によるパイプ曲げ加 工、5.機械鍛造、6.真空成形、7.自動機械絞り加工(冷間)、8.機械 プレスによるバネ成形
	U1026963	手作業による工業製品の鋳造	1.砂型による鋳造、2.圧力鋳造、3.インベスト鋳造
	U1026964	機械操作による工業製品の鋳造	1.高圧鋳造、2.低圧鋳造、3.プラスチック射出成形
	U1026965	工業材料の接合	1.ろう付け作業/はんだ付け作業、2.手溶接(MIG)、3.手溶接 (MAG)、4.手溶接(TIG)
	U1026968	工業製品の組み立て作業	1.電子部品の組立て、2.電気製品の組立て、3.機械部品の組立て、 4.メカトロ製品の組立て、5.構造物鉄鋼の組立て、6.配管組立て作 業、7.厚板の組立て、8.薄板の組立て、9.木工組立て作業、10.型の 組立て、11.修理品の組立て、12.機体の組立て、13.巻き線作業、 14.自動車の内装組立て、15.車体の組立て、16.ME製品の組立て、 17.車両の組立て
	U1026971	表面処理による工業製品の仕上げ(手 作業)	1.コーティングによる仕上げ、2.手作業による表面仕上げ、3.コーテ ングによる型仕上げ
	U1026972	表面処理による工業製品の仕上げ(機 械作業)	1.機械によるコーティング仕上げ、2.砂落しによる仕上げ、3.自動処理 による表面仕上げ、4.吹付仕上げ
	U1026973	工業材料の材料特性の調整	材料特性の調整
	U1026980	仕様の通りに工業製品を分解する	1.機械装置の分解、2.電気装置の分解、3.遠隔装置の分解、4.公共 設備の分解、5.計装装置の分解、6.流体/パワー装置の分解、7.再 生した装置の分解、8.船舶装置の分解、9.修理品の分解、10.循環 装置の分解、11.昇降装置の分解
	U1026982	仕様の通りに工業製品を再度組み立て る	1.機械装置の再組立て、2.電気装置の再組立て、3.遠隔装置の再 組立て、4.公共設備の再組立て、5.計装装置の再組立て、6.流体パ ワー装置の再組立て、7.再生した装置の再組立て、8.船舶装置の 再組立て、9.修理品の再組立て、10.循環装置の再組立て、11.昇 降装置の再組立て
	U1027010	工業材料の接合(機械作業)	1.被覆アーク溶接、2.レーザ溶接、3.電子ビーム溶接、4.摩擦接合、 5.抵抗溶接、6.プラズマ溶接、7.ロボット溶接、8.ろう付け/はんだ付 け、9.MIG溶接、10.TIG溶接、11.端接合
U1027012	手作業による工業材料の成形	1.板金成形、2.パイプ曲げ加工、3.手鍛造、4.打ち延ばし成型、5.線 材のバネ成形、6.板材のバネ成形	

注：選択ユニットは1つを選択する。

出所：日本労働研究機構（2002） p.120

また、16の選択ユニットにはいろいろな職務のものがあり、ユニットの選択方法によ

っていろいろな分野の仕事に対応できるような構成になっている。その構成を次の図表で見ることにする。図表 I-5 に NVQ 工業生産 Level 2 に含まれる職種を示す。

図表 I-5 NVQ 工業生産 (Engineering Production) Level 2 に含まれる職種

No.	職種分野	ユニットNo.	ユニット名
1	機械加工	U1026958	工作機械による工業製品の切削加工
2	CNC機械加工	U1026955	コンピュータ制御機器の操作
3	組立て(Assembly)	U1026968	工業製品の組み立て作業
4	仕上げ (3つから1つを選択)	U1026971	表面処理による工業製品の仕上げ(手作業)
		U1026972	表面処理による工業製品の仕上げ(機械作業)
		U1026973	工業材料の材料特性の調整
5	調整作業	U1026956	手工具による工業製品の加工
6	成形加工 (4つから1つを選択)	U1026956	手工具による工業製品の加工
		U1026962	機械加圧式成形作業による工業製品の製作
		U1026968	工業製品の組み立て作業
		U1026971	表面処理による工業製品の仕上げ(手作業)
7	バネ成形 (2つから1つを選択)	U1026962	機械加圧式成形作業による工業製品の製作
		U1027012	手作業による工業材料の成形
8	溶接 (2つから1つを選択)	U1026965	工業材料の接合
		U1027010	工業材料の接合(機械作業)
9	鋳造 (3つから1つを選択)	U1026960	手成型による工業製品の製作
		U1026963	手作業による工業製品の鋳造
		U1026964	機械操作による工業製品の鋳造
10	材料の合成	U1026960	手成型による工業製品の製作
11	修理作業 (2つから1つを選択)	U1026980	仕様の通りに工業製品を分解する
		U1026982	仕様の通りに工業製品を再度組み立てる

出所：JIL (2002) p.120

NVQ「工業生産 Level 2」の選択ユニットは、機械加工、CNC 機械加工、組立て (Assembly)、仕上げ、調整作業、成形加工、バネ成形、溶接、鋳造、材料の合成及び修理作業という 11 の職種で構成されており、ユニットの選択でいろいろな仕事に進むことを可能にしている。

第 2 節 QCF に位置づけられている NVQ (Engineering・製造技術分野の NVQ の事例)

2009 年に導入された QCF では、この資格枠組みに位置づけられるすべての資格は、

レベル、資格のサイズに区分され、Credit の数値を記述しておおまかな学習・訓練時間の目安を示すことが求められている（1 Credit は 10 時間の学習・訓練時間に相当する）。併せて、指導時間（Guided Learning Hour : GLH）の目安も記入することとされている。

図表 I-6 は、資格授与機関（Awarding Organization : AO）Edexcel が開発した Level 2 NVQ Diploma「機械製造技術」（QCA）から一部抜粋したものを示す。資格の表示は、開発した AO、レベル、NVQ である表示、資格のサイズ、資格の名称、QCA に格付けされている表示で示される。

当該 NVQ は、機械加工（A グループ）、CNC 機械加工（B グループ）、生産組立て（C グループ）、複合製造技術（D グループ）及び光学エンジニアリング（E グループ）の 5 つの職種群から構成されており、かつ、それぞれの職種群には数多くの作業ユニットがある。

例えば、機械加工職種群（A グループ）にはタレット旋盤作業、普通旋盤作業、単軸自動旋盤作業、多軸自動旋盤作業、フライス盤作業、研削盤作業、歯切り盤作業、放電加工機作業、パワープレス作業等、15 の作業ユニットがある。

以前の NVQ との根本的な違いは、1 つのユニットの内容は 1 種類の工作機械を使用し、その作業に絞られており、複数の工作機械を使っての作業を含んでいないことである。旋盤作業なら旋盤作業、フライス盤作業ならフライス盤作業を集中して訓練するというユニットの内容構成になっていることに特徴がある。

また、生産現場の技術変化に対応していろいろな CNC 工作機械による加工作業に関する多くの選択ユニット（B グループ）を整備していることも特徴といえる。

当該 NVQ を取得するためには、3 つの必須ユニットと 1 つ以上の選択ユニットを習得しなければならない。但し、光学エンジニアリング職種については、Unit 41「光学部品の検査」と E グループから 1 ユニットの選択し、計 2 つの選択ユニットを習得しなければならない。

Unit 5 の普通旋盤作業を選択した場合、Edexcel Level 2 NVQ「機械製造技術」（QCF）を取得するためには、3 つの必須ユニット（15 Credit）と Unit 5 普通旋盤作業（49 Credit）の合計 64 Credit（目安の学習・訓練時間は 640 時間）を習得する必要がある。その際の指導時間（GLH）は 236 時間である。ユニットの選択は、受講者（訓練生）の希望や事業主の要望で、2 つのユニット、例えば、普通旋盤作業と CNC 旋盤作業を選択することもできる。

選択ユニットは、1 つ以上のユニットを選択することになっているが、利用者側の要望で複数以上のユニットの選択とさまざまなユニットの組み合わせを可能にしている。

そのことによって、複数の職種（作業）を担当できる技能者や汎用工作機械と CNC 工作機械による加工作業に精通した技能者の養成につながっている。

図表 I-6 Edexcel Level 2 NVQ Diploma 「機械製造技術」 (QCF) より一部抜粋

区分	No.	ユニット名	QCF Level	Credit Value	GLH		
必須 ユニット	Unit.1	法令・規則や組織の安全条件の順守	2	5	35		
	Unit.2	技術データ・資料の活用と解釈	2	5	25		
	Unit.3	エンジニアリング分野において効果的、効率的に作業をすること	2	5	25		
選択 ユニット	A グ ル ー プ	Unit.4	タレット旋盤作業	2	49	151	
		Unit.5	普通旋盤作業	2	49	151	
		Unit.6	単軸自動旋盤作業	2	39	130	
		Unit.7	多軸自動旋盤作業	2	39	130	
		Unit.8	フライス盤作業	2	49	151	
		Unit.9	単軸・多軸ボール盤作業	2	49	151	
		Unit.10	研削盤作業	2	49	151	
		Unit.11	単一目的機械作業	2	49	151	
		Unit.12	歯切り盤作業	2	49	151	
		Unit.13	放電加工機作業	2	49	151	
		Unit.14	ホーニング盤・ラップ盤作業	2	39	130	
		Unit.15	ブローチ盤作業	2	39	130	
		Unit.16	形削り盤、平削り盤、スロツティング・マシン作業	2	49	151	
		Unit.17	歯車研削盤作業	2	49	151	
		Unit.18	パワープレス作業	2	39	130	
		B グ ル ー プ	Unit.19	CNC旋盤作業	2	39	130
			Unit.20	CNCフライス盤作業	2	39	130
			Unit.21	CNC研削盤作業	2	39	130
Unit.22	CNCパンチプレス作業		2	39	130		
Unit.23	CNCレーザー成形機作業		2	39	130		
Unit.24	CNC放電加工機作業		2	39	130		
Unit.25	CNC歯切り盤作業		2	39	130		
Unit.26	CNCマシニング・センター作業		2	39	130		
C グ ル ー プ	Unit.27	機械組み立て生産	2	49	151		
	Unit.28	機械装置への油圧機器の取り付け作業	2	49	151		
	Unit.29	機械装置への電気・電子部品の取り付け作業	2	49	151		
	Unit.30	機械装置への配管部品の取り付け作業	2	49	151		
-	-----	-----	--	--	--		
E グ ル ー プ	Unit 44	光学プリズム及び平面の加工作業	2	42	151		
	Unit 45	CNC非球面加工機作業及びダイヤモンド旋削加工作業	2	32	130		
	Unit 46	CNC光学研削盤作業及びポリッシング盤作業	2	32	130		
	Unit 47	光学円筒及び半球体加工作業	2	42	151		
	Unit 48	真空コーティング光学加工機作業	2	32	130		
	Unit 49	光学プラスチック加工作業	2	42	151		

1.機械作業：Aグループから最低限1ユニットを選択する。

2.CNC 機械作業：Bグループから最低限1ユニットを選択する。

3.生産組立て：Cグループから最低限1ユニットを選択する。

4.光学エンジニアリング：Unit 41「光学部品の検査」とEグループから1ユニットを選択する。

出所：N025372-Specification-Edexcel Level 2 NVQ Diploma in Mechanical Manufacturing Engineering (QCF) -Issue 1- January 2011

図表 I-7 は Edexcel Level 3 NVQ Diploma 「機械製造技術」 (QCA) の一部を抜粋して掲載したものである (全ユニット数は 154 である)。

当該 NVQ は、Advanced Apprenticeship Programme によく活用されており、エンジニアリング職種分野では人気のある NVQ の 1 つである。

図表 I - 7 Edexcel Level 3 NVQ Diploma 「機械製造技術」 (QCF) より一部抜粋

区分	No.	ユニット名	QCF Level	Credit Value	GLH
必須 ユニット	Unit.1	法令・規則や組織の安全条件の順守	2	5	35
	Unit.2	技術データ・資料の活用と解釈	2	5	25
	Unit.3	エンジニアリング分野において効果的かつ効率的に作業すること	3	5	25
選択 ユニット	A01	Unit.4 生産のために旋盤を設定する Unit.5 普通旋盤による部品加工	3 3	91 77	210 161
	A02	Unit.6 生産のためにタレット旋盤を設定する Unit.7 タレット旋盤による部品加工	3 3	91 77	210 161
	A03	Unit.8 生産のためにフライス盤を設定する Unit.9 フライス盤による部品加工	3 3	91 77	210 161
	A04	Unit.10 生産のために形削り盤、平削り盤、スロッシング・マシンを設定する Unit.11 形削り盤、平削り盤、スロッシング・マシンによる部品加工	3 3	78 69	175 126
	A05	Unit.12 生産のために歯切り盤を設定する Unit.13 歯切り盤による部品加工	3 3	91 77	210 161
	A06	Unit.14 生産のために歯車研削盤を設定する Unit.15 歯車研削盤による部品加工	3 3	91 77	210 161
	A07	Unit.16 生産のために横型中ぐり盤を設定する Unit.17 横型中ぐり盤による部品加工	3 3	91 77	210 161
	A08	Unit.18 生産のために立形中ぐり盤を設定する Unit.19 立形中ぐり盤による部品加工	3 3	91 77	210 161
	A09	Unit.20 生産のために放電加工機を設定する Unit.21 放電加工機による部品加工	3 3	91 77	210 161
	A10	Unit.22 生産のために研削盤を設定する Unit.23 研削盤による部品加工	3 3	91 77	210 161
	A11	Unit.24 生産のためにホーニング盤、ラップ盤を設定する Unit.25 ホーニング盤、ラップ盤による部品加工	3 3	78 33	175 119
	A12	Unit.26 生産のためにブローチ盤を設定する Unit.27 ブローチ盤による部品加工	3 3	78 33	175 119
	A13	Unit.28 生産のために金属絞り加工機を設定する Unit.29 金属絞り加工機による部品加工	3 3	78 77	175 161
	BM	Unit.30 CNC工作機械のプログラムを読み込み、証明する Unit.31 CNC工作機械のプログラミングをする	3 3	24 84	91 231
	B01	Unit.32 生産のためにCNC旋盤を設定する Unit.33 CNC旋盤による部品加工	3 3	70 63	140 126
	B02	Unit.34 生産のためにCNCフライス盤を設定する Unit.35 CNCフライス盤による部品加工	3 3	70 63	140 126
	B03	Unit.36 生産のためにCNC研削盤を設定する Unit.37 CNC研削盤による部品加工	3 3	70 63	140 126
	B04	Unit.38 生産のためにCNCパンチプレスを設定する Unit.39 CNCパンチプレスによる部品加工	3 3	70 63	140 126
	B05	Unit.40 生産のために CNC レーザー成形機を設定する Unit.41 CNC レーザー成形機による部品加工	3 3	70 63	140 126
	B06	Unit.42 生産のために CNC 放電加工機を設定する Unit.43 CNC 放電加工機による部品加工	3 3	70 63	140 126
	B07	Unit.44 生産のためにCNC立形中ぐり盤を設定する Unit.45 CNC 立形中ぐり盤による部品加工	3 3	70 63	140 126

	B10	Unit.50 生産のために CNC マシニング・センターを設定する Unit.51 CNC マシニング・センターによる部品加工	3 3	70 63	140 126

1.Machining : A01～A13 の中から 1 つを選択する。

2.CNC Machining : BM から 1 ユニットを選択し、さらに B01～B10 の中から 1 つを選択する。

出所 : N025099-Specification-Edexcel Level 3 NVQ Diploma in Mechanical Manufacturing Engineering (QCF) -Issue 1- March 2011

当該 NVQ は、3 つの必須ユニットと 151 の選択のユニット、合計 154 のユニットで構成されており、選択ユニットの選び方によっていろいろな職種に進むことができるようになっている。

この NVQ に含まれている職種は、機械加工（A グループ）、CNC 機械加工（B グループ）、工作機械の設定（C グループ）、仕上げ・組立て（D グループ）、パイプ仕上げ・組立て（E グループ）、複合製造技術（F グループ）、機械のオーバーホール及び検査（G グループ）、バネ成形（H グループ）及び光学エンジニアリング（I グループ）の 9 職種である。

当該 NVQ を取得するために習得しなければならないユニットの数は、職種分野によって選択ユニットの選択数が違っている（いずれの職種も 3 つの必須ユニットは必ず習得）。例えば、機械加工職種で NVQ を取得する場合は、A01~A13 から 1 つ（2 つのユニット）を選択しなければならない。CNC 機械加工職種の場合は、BM（Unit 30, Unit 31）から 1 ユニットの選択し、さらに B01~B10 から 1 つ（2 つのユニット）、計 3 つのユニットを選択しなければならない。したがって、CNC 機械加工職種において、機械加工のプログラミングに精通したマシニング・センター作業を目指した NVQ を取得するためには、3 つの必須ユニット（15 Credit）と選択ユニット（Unit 31=84 Credit）及び選択ユニット B10（133 Credit）の合計 232 Credit を習得する必要がある。この際の目安となる学習・訓練時間は 2,320 時間である。

次にエンジニアリング分野におけるレベル 1 の NVQ について見てみる。図表 I-8 に Edexcel Level 1 NVQ Certificate「エンジニアリング作業の実施」（QCA）を示す。

エンジニアリング分野の NVQ のサイズは、ほとんどが Diploma で構成されており、Certificate のものは非常に少ない。当該 NVQ は、非常に基礎的な内容で構成され、3 つの必須ユニットと 33 の選択ユニットの計 36 のユニットで成り立っている。この NVQ の取得条件は、3 つの必須ユニット（11 Credit）と 2 つの選択ユニット（20 Credit）の計 31 Credit を習得することである。目安とされる学習・訓練時間は 310 時間である。

ちなみに、当該 NVQ の選択ユニットには、以下の職種がある。

①組立て（Unit 4~Unit 6）、②機械加工（Unit 7~Unit 9）、③油圧装置組立て・機械装置保全（Unit 10~Unit 11）、④板金加工（Unit 12~Unit 14）、⑤溶接（Unit 15~Unit 19）、⑥電気・電子組立て（Unit 20~Unit 24）、⑦木材加工・組立て（Unit 25~Unit 26）、⑧複合型組立て（Unit 27~Unit 28）、⑨鋳造（Unit 29~Unit 32）、⑩熱処理・表面処理（Unit 33~Unit 35）、⑪鍛造（Unit 36）。

また、当該 NVQ の選択ユニットには、高度な知識を必要とする加工のプログラミングが欠かせない CNC 工作機械による機械加工作業は含まれていない。このことから、当該 NVQ を構成する選択ユニットは、機械加工作業の非常に基礎的な内容で構成され、高度な計算や数学的知識を必要とするものは含まれていないことがわかる。

選択ユニットには 10 Credit のものが多く、目安となる学習・訓練時間は 100 時間と少ない。

図表 I - 8 Edexcel Level 1 NVQ Certificate 「エンジニアリング作業の実施」 (QCF)

区分	No.	ユニット名	QCF Level	Credit Value	GLH
必須 ユニット	Unit.1	効果的かつ効率的にエンジニアリング作業を実施する	1	3	22
	Unit.2	技術情報の活用と伝達	1	3	22
	Unit.3	エンジニアリング環境下における安全作業	2	5	33
選択 ユニット	Unit.4	手工具を使った部品製作と組み付け	1	10	63
	Unit.5	機械部品の組立て	1	10	63
	Unit.6	配管作業	1	10	63
	Unit.7	旋盤操作	1	10	63
	Unit.8	フライス盤操作	1	10	63
	Unit.9	研削盤操作	1	10	63
	Unit.10	機械設備の定期的な手入れ	1	10	63
	Unit.11	油圧機器の組立て	1	10	63
	Unit.12	板金の切断、成形及び組み付け作業	1	10	63
	Unit.13	板金工用部品の切断と成形	1	10	63
	Unit.14	ガス切断機の操作	1	10	63
	Unit.15	手動金属アーク溶接機の操作	1	10	63
	Unit.16	手動 TIG 溶接機の操作	1	10	63
	Unit.17	手動 MIG or MAG 溶接機の操作	1	10	63
	Unit.18	手動ガス溶接機の操作	1	10	63
	Unit.19	手動ロウ付け機、はんだ付け機の操作	1	9	59
	Unit.20	電気機器、回路の配線	1	10	63
	Unit.21	電気配線支援システムの組立て	1	10	63
	Unit.22	電気パネルの配線・組立て	1	10	63
	Unit.23	電子回路組立て	2	10	63
	Unit.24	電気/電子機器の定期的な手入れ	1	10	63
	Unit.25	木質系材料の部品製作	1	10	63
	Unit.26	工業用木材部品の組立て	1	9	59
	Unit.27	複合成形作業	1	10	63
	Unit.28	複合部品の組立て	1	9	59
	Unit.29	鋳型用砂の準備と中子製作	1	5	38
	Unit.30	鋳造用砂型と中子の製作	1	10	63
	Unit.31	部品の手動鋳造	1	9	59
	Unit.32	鋳造部品の組み付け	1	6	45
	Unit.33	仕上げ面のコーティング	1	7	49
	Unit.34	表面処理	1	7	49
	Unit.35	工業材料の熱処理	1	7	49
	Unit.36	工業材料の手動鍛造	1	7	49

選択ユニットから最低限 2 ユニットの選択する。

出所：N025374-Specification-Edexcel Level 1 NVQ Certificate in Performing Engineering Operations (QCF) -Issue 1- November 2010

図表 I-9 に Edexcel Level 2 NVQ Diploma 「エンジニアリング作業の実施」(QCA) から一部抜粋したものを示す。

当該 NVQ はエンジニアリング分野の中で、唯一 Off-JT で取得できる資格である。

Advanced Apprenticeship Programme では、当該 NVQ と Level 3 NVQ Diploma 「機

械製造技術」(QCA) をセットにして訓練を実施している場合が多い。

図表 I - 9 Edexcel Level 2 NVQ Diploma 「エンジニアリング作業の実施」(QCF) より一部抜粋

区分	No.	ユニット名	QCF Level	Credit Value	GLH	
必須 ユニット	Unit.1	エンジニアリング環境下における安全作業	2	5	33	
	Unit.2	効果的かつ効率的にエンジニアリング作業を実施する	2	4	29	
	Unit.3	技術情報の活用と伝達	2	4	29	
選択 ユニット	Unit.4	CADによる機械図面の作成	2	11	61	
	Unit.5	手加工による部品の製作	2	14	64	
	Unit.6	機械部品の生産	2	15	68	
	Unit.7	パイプの成形と組み付け	2	14	64	
	Unit.8	航空機の細部のはめ合わせをする	2	14	64	
	Unit.9	航空機に機械締結部品を取り付ける	2	11	61	
	Unit.10	航空機の細部の部品生産	2	14	64	
	Unit.11	旋盤の準備と旋盤作業	2	15	68	
	Unit.12	フライス盤の準備とフライス盤作業	2	15	68	
	Unit.13	研削盤の準備と研削盤作業	2	15	68	
	Unit.14	CNC工作機械のプログラムの準備と証明	2	14	64	
	Unit.15	CNC旋盤の準備と加工作業	2	14	64	
	Unit.16	CNCフライスの準備と加工作業	2	14	64	
	Unit.17	CNCマシニング・センターの準備と加工作業	2	14	64	
	Unit.18	産業用ロボットの準備と操作	2	14	64	
	Unit.19	機械装置、設備の保全	2	14	64	
	Unit.20	油圧システムの組み付けと検査	2	14	64	
	Unit.21	油圧装置の保全	2	14	64	
	Unit.22	板金部品の生産と組立て	2	14	64	
	Unit.23	板金工事用部品の生産と組立て	2	14	64	
	Unit.24	熱切断機による材料の切断と成形	2	14	64	
	Unit.25	CNC 成形機プログラムの準備と証明	2	14	64	
	Unit.26	CNC 成形機の準備と加工作業	2	14	64	
	Unit.27	手動金属アーク溶接機の準備と操作	2	15	68	
	Unit.28	手動 TIGPまたはプラズマ・アーク溶接機の準備と操作	2	15	68	
	Unit.29	手動 MIG, MAG及びその他の連続ワイヤー溶接機の準備と操作	2	15	68	
	Unit.30	手動ガス溶接機の準備と操作	2	14	64	
	Unit.61	CADシステムによるモデル(図面)の作成	2	11	61	
	B ₂	Unit 62	エンジニアリング・プロジェクト計画の作成	2	8	37
		Unit 63	エンジニアリング活動を支援するためにコンピュータ・ソフトウェア活用	2	8	37
Unit 64		事業改善活動の実施	2	8	41	
B ₃	Unit 65	一般的な機械加工、取り付け、組立ての応用	2	12	55	
	Unit 66	一般的な組立て、溶接の応用	2	12	55	
	Unit 67	一般的な電気・電子技術の応用	2	12	55	
	Unit 68	一般的な保全技術の応用	2	12	55	

エンジニアリング実習は指定された選択ユニット群から最低限 3 ユニットの選択する。

技術サポートは指定された選択ユニット群から最低限 5 ユニットの選択する。

出所：N025373-Specification-Edexcel Level 2 NVQ Diploma in Performing Engineering Operations (QCF) -Issue 1- March 2012

当該 NVQ の構成は、3 つの必須ユニットと 65 の選択ユニットの計 68 ユニットである。

この NVQ には 2 つの進路 (Pathway) がある。1 つはエンジニアリング実習で、もう 1 つは技術サポートである。エンジニアリング実習の選択ユニットは、①航空機部品の製作・組付け (Unit 8~Unit 10)、②汎用工作機械による機械加工 (Unit 11~Unit 13)、③CNC 工作機械による機械加工 (Unit 14~Unit 17)、④油圧システム・装置の組付け・保全 (Unit 20~Unit 21)、⑤板金作業 (Unit 22~Unit 24)、⑥CNC 成形加工機による加

工 (Unit 25~Unit26)、⑦溶接 (Unit 27~Unit 31)、⑧電気・電子回路／機器の配線・組立て (Unit 32~Unit 36)、⑨電気・電子装置の保全／制御機器・PLC の保全 (Unit 37~Unit 40)、⑩工業用木材の応用 (Unit 41~Unit 41)、⑪複合型の製作 (Unit 43~Unit 47)、⑫鋳造 (Unit 48~Unit 51)、⑬熱処理・表面処理 (Unit 52~Unit 54)、⑭モータースポーツ用車両の修理・保全 (Unit 56~Unit 60) 等の 14 分野で構成されている。

エンジニアリング実習の分野で当該 NVQ を取得するためには、A グループの選択ユニットから 3 つのユニットを選んで習得しなければならない。例えば、CNC 工作機械 (マシニング・センター) による機械加工で当該 NVQ を取得するためには、3 つの必須ユニット (13 Credit) と 3 つの選択ユニット (Unit 4 「CAD による機械図面の作成」、Unit 14 「CNC 工作機械のプログラムの準備と証明」、Unit 17 「CNC マシニング・センターの準備と操作」を選んだ場合) (39 Credit) の計 52 Credit を習得しなければならない。その際の見安となる学習・訓練時間は 520 時間である。

一方、技術サポートを目指す者は、図表 I-10 に示すように B1 グループから 1 ユニット、B2 グループから 2 ユニット、そして、B3 グループから 2 ユニットの計 5 ユニットを選択しなければならない。したがって、技術サポートの NVQ をとるためには、必須の 3 ユニット (13 Credit) と B1 グループの 1 ユニット (11 Credit)、B2 グループの 2 ユニット (16 Credit) 及び B3 グループの 2 ユニット (24 Credit) の計 64 Credit を習得しなければならない。

見安となる学習・訓練時間は 640 時間である。

図表 I - 10 技術サポートにおける選択ユニットの選び方

B1グループの選択ユニット:1つのユニットを選択する

Unit No.	ユニット名	Credit
Unit. 4	CADによる機械図面の作成	11
Unit 32	CADによる電気・電子図面の作成	11
Unit 61	CADシステムによるモデル(図面)の作成	11

B2グループの選択ユニット:2つのユニットを選択する

Unit No.	ユニット名	Credit
Unit 62	エンジニアリング・プロジェクト計画の作成	8
Unit 63	エンジニアリング活動を支援するためにコンピュータ・ソフトウェア活用	8
Unit 64	事業改善活動の実施	8

B3グループの選択ユニット:2つのユニットを選択する

Unit No.	ユニット名	Credit
Unit 65	一般的な機械加工、取り付け、組立ての応用	12
Unit 66	一般的な組立て、溶接の応用	12
Unit 67	一般的な電気・電子技術の応用	12
Unit 68	一般的な保全技術の応用	12

当該 NVQ (レベル 2) とレベル 1 の Edexcel Level 1 NVQ Certificate 「エンジニアリング作業の実施」(QCA) の選択ユニットの構成を比較してみると、そのレベル差がわかる。

レベル 2 では、レベル 1 になかった CNC 工作機械による機械加工作業があり、個々の選択ユニットの Credit も約 1.5 倍大きくなっている。したがって、学習・訓練時間も 1.5 倍長くなるので、選択ユニットで扱う内容は広く、かつ、高度なもので構成されているといえる。

第3章 資格の質を保証する仕組み

第1節 NVQの品質保証

NVQの取得訓練及びNVQの授与に関しては、資格授与機関(AO)と評価センター(AOから認可された訓練プロバイダー)が深く関与しており、資格の質を保証するために、これらの組織を認可する要件が規定されている。

AOの認可や資格の認可に関して、Ofqualは次のような規定を定めている。

【AOに関する規定】

- ① 組織の運営（組織の背景、運営体制、資材と財政、業務実行能力）
- ② AOとOfqualの関係
- ③ 第三者（訓練及び評価センター）との関係

【認可資格に関する規定】

- ① 認可資格に関する一般規定
- ② 資格の設計と開発
- ③ 資格の販売（手数料の明記等）
- ④ 評価方法の設定と開発
- ⑤ 採点と結果の発表
- ⑥ 審査申し立てと証明書
- ⑦ 用語の定義

一方、AOやNVQ取得訓練を行う評価センター（AOから認可された訓練プロバイダー）については、NVQ実施規約（NVQ code of practice）で次の事項を規定している。

- ① NVQの評価と品質保証のために合意された原理と実務（内部評価、内部評価の品質保証、内部監査、内部監査の品質保証、外部監査、サンプリング検査等）
- ② 評価センターとして認可されるための要件
- ③ AOの責務と認可された評価センターの責務
- ④ OfqualがAO及び評価センターをモニターするにあたっての基準

また、訓練の実施・運営に関しては、有資格者（評価者、内部監査員、外部監査員）を介在させて、訓練の成果（ユニットの達成度）を評価、監査する仕組みを作っている。

異なる有資格者が介在することによって、訓練成果の評価については2重3重のチェックが行われ、このことが資格の質を確保している。

NVQ実施規約の中では、評価者、内部監査員及び外部監査員の資格要件⁷や彼等の能力開発及び能力向上研修についても、厳格に規定している。

⁷ 詳細は、労働政策研究・研修機構（2004）を参照。

NVQ の取得訓練においては、ユニットの達成度（訓練による成果）を証明する「証拠：Evidence」が重要視される。

訓練生はユニットの内容を達成するためには、自分が習得した知識、技能、理解度が評価要件の中で要求される基準を満たしていることを示す証拠を集めなければならない。

証拠にはいろいろなタイプがあり、以下のものがある。

- ① 評価者による現場における訓練生のパフォーマンスの観察
- ② 口頭質問／または記述式質問による Q & A
- ③ 訓練生の製作物
- ④ 訓練生の陳述／または熟考した説明
- ⑤ 評価戦略の中で認可されたシミュレーションによる成果
- ⑥ 専門的な論考
- ⑦ 課題、プロジェクト／ケーススタディ
- ⑧ 訓練に責任のある上司の証言
- ⑨ 専門家の目撃証言
- ⑩ テープまたはビデオによる証拠
- ⑪ 以前の学習で認定された証拠

これらの証拠をユニットごとに集め、整理したものがポートフォリオである。評価者は、このポートフォリオを評価基準に照らしてチェックし、ユニットの達成度を判定する。

第2節 QCF 資格の品質保証

知識ベースの QCF 資格の取得訓練は、AO が提供する必要な研修を受講したトレーナーが実施を担当し、訓練の修了時にペーパーテストを実施して訓練生の習得度を判定する方法が一般的に行われている。一方、コンピテンス・ベースの QCF 資格の取得訓練の場合、訓練生のユニットの達成度（習得度）の評価・判定には、必要な研修を受講した評価者、内部品質保証担当者及び外部品質保証担当者が介在して、資格の品質の確保に努めている。

NVQ との大きな違いは、NVQ のように統一された規定やガイドラインによるものではなく、SSC あるいは AO ごとに Ofqual の承認を得て、発行している資格仕様書（Specification）の中に指針を記述して対応していることである。

例えば、介護・開発のための技能分野の SSC (Skills for Care and Development: SfCD) が開発した NOS に基づいて、資格授与機関 Pearson Education Ltd. が作成した資格仕様（Specification『Pearson Edexcel Level 3 Diploma in Health and Social Care (Adults) for England (QCF)』 For first registration January 2011）では、資格の品質保証に関する指針として、品質保証、センターの認定と登録、評価の原則と戦略、評価者の資格等が示されている。また、QCF 資格取得訓練における資格の質保証に関して重

要な役割を担う、評価者の要件と評価者のための資格、内部品質保証及び外部品質保証については次のように記述されている。

① 評価者の要件と評価者の資格

- ・ 評価者は、当該分野について十分な職務能力を持っていること。
- ・ 評価する資格ユニットに直接関連する技能、知識、理解度について一貫性のある適用を示すことができること。
- ・ 積極的に継続的な専門能力開発を行い、職務能力の維持向上に努めること。
- ・ QCF 資格を評価する評価者は、必要な研修を受けなければならない。

また、評価者として取得すべき資格として、SfCD では次のような暫定的な資格リストを提示しているが、評価者が実際に資格保有者であるかどうかは不問である（ただし、評価者研修の受講は必須）。

【資格リスト一覧】

- ・ D32 ユニット資格と D33 ユニット資格
- ・ A1 ユニット資格と A2 ユニット資格
- ・ 業務現場での職務能力の評価資格（Level 3 Award QCF）（コンピテンス／技能学習成果のみを評価する資格）
- ・ 職務に関連する達成度の評価資格（Level 3 Award QCF）（知識学習の成果のみを評価する資格）
- ・ 職務の達成度の評価資格（Level 3 Certificate QCF）
- ・ 有資格教師のステイタス
- ・ 義務教育後の教育資格（Certificate）
- ・ 実習教師の資格（Award）
- ・ 保健・社会介護基準にある指導・評価の資格
- ・ 生涯学習分野における指導準備の資格（Award、PTLLS）
- ・ 生涯学習分野における指導資格（Certificate、CTLIS）

上記の評価者が、訓練の中で訓練生の達成したユニット（訓練生が到達した職務能力）を判断する際の職務能力の証拠（Evidence）は、①仕事を通して生じる証拠、②訓練プログラムの中に組み込まれている評価の機会から生じる証拠、③以前の学習で認定された証拠及び④前者 3 つの組み合わせによる証拠に区別されている。

これらの証拠にはいろいろなタイプがあり、以下のものが示されている。

- a. 評価者による訓練生のパフォーマンスの観察
- b. 口頭質問／または記述式質問による Q & A
- c. 訓練生の製作物

- d. 訓練生の陳述／または熟考した説明
- e. 評価戦略の中で認可されたシミュレーションによる成果
- f. 専門的な論考
- g. 課題、プロジェクト／ケーススタディ
- h. 訓練に責任のある上司の証言
- i. 専門家の目撃証言
- j. 以前の学習で認定された証拠

これらの証拠は、NVQ のユニットの内容を達成するために訓練生が示さなければならないものと同じである。

したがって、コンピテンス・ベースの QCF 資格では、NVQ に準じた評価を実施しているが、それを担当する評価者や内部品質保証担当者の要件が、NVQ ほど厳格ではないということが違いといえる。

② 内部品質保証

内部品質保証担当者（内部監査員に代わる呼称）の要件は、以下のとおりである。

- ・ 担当する一連のユニットの評価職務に精通していること。
- ・ 監査する資格の内容、構成及び評価要件を理解していること。
- ・ 積極的に継続的な専門能力開発を行い、職務能力の維持向上に努めること。
- ・ 必要な研修を受講していること。

③ 外部品質保証

外部品質保証担当者（外部監査員に代わる呼称）

- ・ 当該職業分野の知識に精通していること。
- ・ 品質を保証しようとしている資格について詳細な知識を持っていること
- ・ AO の仕組みやドキュメントに関して詳細な知識を持っていること。
- ・ Ofqual や AO から出されている評価と品質保証実務を記述している指導ドキュメントに精通していること
- ・ 積極的に継続的な専門能力開発を行い、職務能力の維持向上に努めること。
- ・ 認定された適切な資格を持っていること。あるいは、取得しようとしていること。

NVQ 取得訓練を実施する場合、評価センターでは NVQ 実施規約に規定されている責務の実施と評価者及び内部監査員を確保すること、AO では AO としての責務と外部監査員を確保することが必要で、業務や書類の整備が煩雑で手間暇がかかるという面がある。加えて、ユニットの達成度の評価や評価の質を保証する作業は、有資格者である評価者及び内部監査員に限ること。そして、評価センターが行った評価結果の監査は有資格者

である外部監査員が行うことが義務付けられている。これらの有資格者の確保と彼等の継続的な能力開発の実施は、評価センターやAOにとって大きな負担となっている。

このような状況から、評価センターやAOの中には、実施規定の厳しいNVQに代わって実施規定の緩いQCF資格を提供するところも多いといわれている。

一方で、コンピテンス・ベースの資格は、NVQのやり方の方が現場の職務に忠実に対応しており従業員の能力開発に適しているという声も多くある。とりわけ、SEMTA（科学・エンジニアリング・製造技術分野のSSC）が開発しているエンジニアリング・製造技術分野のNOSに基づいて構築されたNVQの評価は、製造業の間で高く根強い人気がある。しかし、小売・商業、経営・管理事務・法律、レジャー・旅行・観光及び保健・公共サービス・介護分野の資格を利用している産業では、QCF資格を利用する企業が多いようである。

このように産業分野において、資格に対する評価や利用に違いがある。

第4章 NQF と QCF による資格管理の現状

資格授与機関(AO)が資格・試験監査機関(Office of Qualifications and Examinations Regulation: Ofqual)に申請して認可された資格は、管理対象資格として Ofqual に登録される。管理対象資格には、職業資格(Vocational Qualifications)と上級資格(Higher Qualifications)がある。上級資格はNQFのレベル4以上に格付けされているものである(高等教育資格は含まない)。

職業資格には以下の4種類がある。

- ① NVQ
- ② 職業関連資格 (Vocationally Related Qualifications)
- ③ 職種別資格 (Occupational Qualifications)
- ④ QCF (QCFの枠組みに格付けられている資格)

第1節 NQFに位置づけられている資格

上記の①~③の資格の中で、QCFに移行しなかった資格がNQFに位置づけられている。それ以外に、教育資格であるGCE-Aレベル、GCSEグレードA~C、GCSEグレードD~Gなど、そして、基本的な知識に関する6分野(①IT関連スキル、②コミュニケーションスキル、③数の応用スキル、④他者との協働スキル、⑤問題解決スキル、⑥学習、職務遂行スキル)で構成されるキー・スキル(Key skills)などがある。

上級資格もQCFに移行しなかったものが、このNQFに格付けられている。

また、高等教育資格として博士課程修了、修士課程修了、学士課程修了、Foundation Degree、Diploma of Higher Education、Certificate of Higher Educationなどが参照的にNQFに格付けられている。

一方、電気、機械、土木等の技術分野、経済分野、法律分野等の専門資格は、勅許機関が基準を設定して運営しているもので、公認技術士、経営学修士(MBA)、公認会計士等多くの資格があるが、これらの資格のNQFへの格付けは、資格を管理運営している勅許機関の判断に任されている。

第2節 QCFに位置づけられている資格

上記の①~③の資格は、QCFの導入に合わせて再編成されQCFに格付けされたものが多くある。その際、すべての資格は、レベルと資格のサイズ(Award、Certificate、Diploma)に区分されてQCF(資格枠組み)の中に格付けられている。QCFに位置づけられている資格は、Ofqualによって認可されたもので、NVQとNVQ以外の資格(以下、QCF資格と呼称)で構成されている。

QCF資格には、AwardやCertificateのものが多く、Diplomaは前者の2つに比べる

と少ない。一方、NVQは資格の分野によって違いがある。エンジニアリング・製造技術分野ではほとんどのものがDiplomaであり、レベル1の中にCertificateのものが若干含まれている程度である。しかし、保健・公共サービス・介護分野や経営・管理事務・法律分野ではCertificateのものが多く含まれている。

NVQは職務遂行能力に基づく評価の資格（コンピテンス・ベースの資格）である。一方、QCF資格には、学習で習得した知識を評価する資格（知識ベースの資格）とコンピテンス・ベースの資格とがある。

第3節 QCF 資格の数（資格のサイズ別、レベル別及び分野別）

それでは、QCF資格の数はどれ程あるのか見てみる。2012年1月1日時点でOfqualが登録管理しているQCF資格の数は9,666である。この9,666の資格の数が、資格のサイズ別、レベル別及び分野別にそれぞれどのような構成になっているのか見てみる。

1. QCF 資格のサイズ別構成

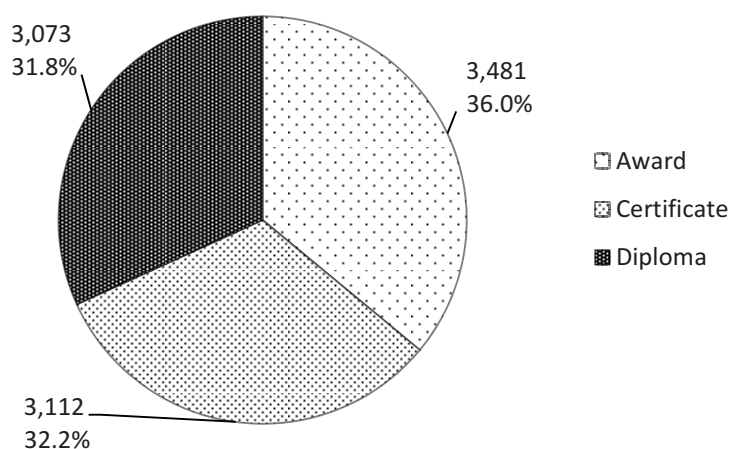
図表 I-11 にサイズ別の QCF 資格の数を示す。

最も数が多いのは Award で 3,481 の資格がある。これは、QCF 資格全体の 36.0% を占めている。次の多いのが Certificate 資格で 3,112、QCF 資格全体の 32.2% を占めている。

サイズが最も大きい Diploma 資格は、3,073 で QCF 資格全体の 31.8% を占めている。

全体的には、Award 資格の数が幾分多いが、それぞれのサイズの資格が 1/3 ずつを占めている構成になっている。

図表 I - 1 1 QCF 資格の数（資格のサイズ別）（2012 年）



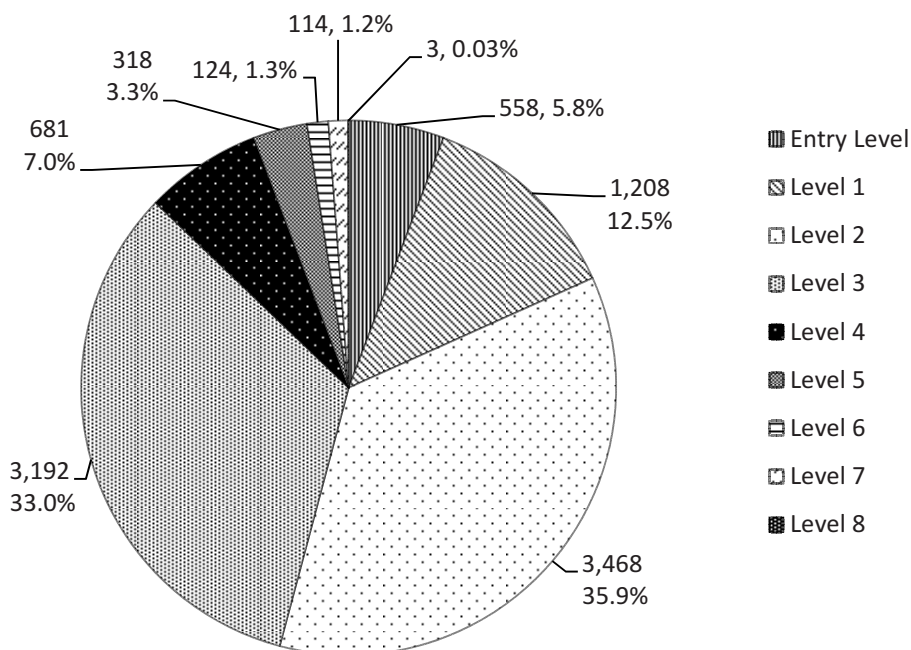
出所：Ofqual Database より作成

2. QCF 資格のレベル別構成

図表 I-12 にレベル別の QCF 資格の数を示す。

最も数が多いのはレベル 2 の資格で 3,468 である。これは QCF 資格全体の 35.9% を占めている。

図表 I - 1 2 QCF 資格の数（レベル別）（2012 年）



出所：Ofqual Database より作成

2 番目に多いのは、レベル 3 の資格で 3,192、QCF 資格全体の 33.0% を占めている。

以下、レベル 1 の 1,208（同 12.5%）、レベル 4 の 681（同 7.0%）、エントリー・レベルの 558（同 5.8%）、レベル 5 の 318（同 3.3%）などである。

レベル 2 及びレベル 3 の資格で全体の約 7 割（68.9%）を占めている。

また、エントリー・レベルからレベル 3 までの資格の数でみると、全体の約 9 割（87.2%）を占めることになり、技能の低い者や初心者を対象とした資格が多いことを示している。

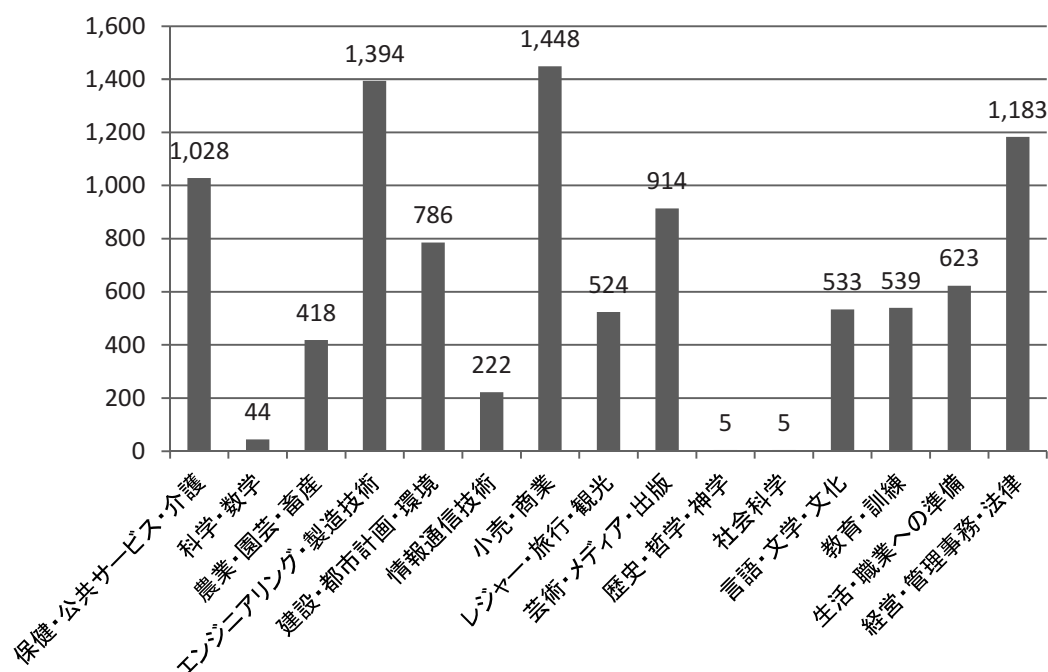
3. QCF 資格の分野別構成

図表 I-13 に分野別の QCF 資格の数を示す。

最も多いのは「小売・商業」分野の資格の 1,448 で、資格全体の 15.0% を占めている。

2 番目は、「エンジニアリング・製造技術」分野の 1,394 で、資格全体の 14.4% を占めている。

図表 I - 1 3 QCF 資格の数（分野別）（2012 年）



出所：Ofqual Database より作成

以下、「経営・管理事務・法律」分野の資格の 1,183（同 12.2%）、「保健・公共サービス・介護」分野の 1,028（同 10.6%）、「芸術・メディア・出版」分野の 914（同 9.5%）、「建設・都市計画・環境」分野の 786（同 8.1%）、「生活・職業への準備」分野の 623（同 6.4%）などとなっている。「小売・商業」、「エンジニアリング・製造技術」、「経営・管理事務・法律」及び「保健・公共サービス・介護」の 4 分野で資格全体の 5 割強（52.2%）を占めている。

第 4 節 NVQ の数（レベル別及び分野別）

次に、NVQ の構成について見てみる。

NVQ の資格サイズは、ほとんどが Diploma で構成されており、Certificate の資格がレベル 1 やレベル 2 に少しある程度である。したがって、ここではレベル別及び分野別の NVQ の構成について見てみる。使用するデータは 2012 年 1 月 1 日時点の Ofqual Database である。

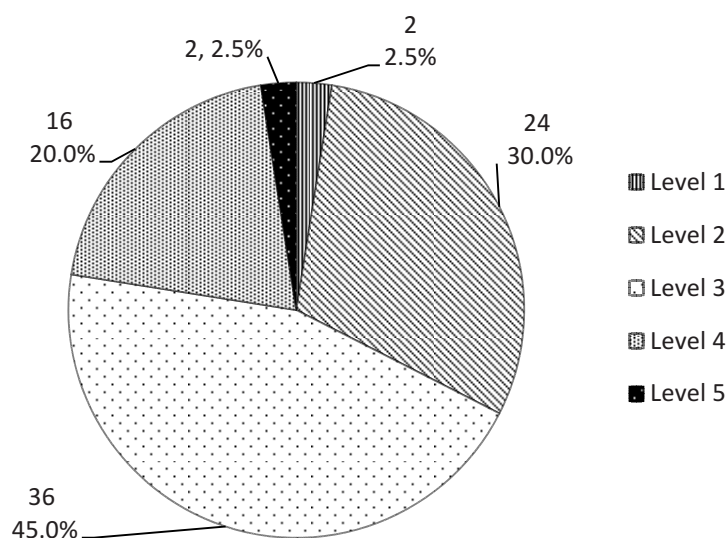
1. NVQ のレベル別構成

図表 I-14 にレベル別の NVQ の数を示す。

全体の NVQ 資格の数は 80 である。その中で、最も多いのはレベル 3 の資格の 36 で、資格全体の 45.0% を占めている。以下、レベル 2 の資格で 24（同 30.0%）、レベル 4 の

資格で 16 (同 20.0%) となっており、レベル 5 とレベル 1 の資格はそれぞれ 2 (同 2.5%) である。レベル 2 とレベル 3 を合わせた資格で全体の 8 割近く (75.0%) を占めており、資格取得の対象者にこのレベルの資格を取らせることに主眼が置かれていることがわかる。また、QCF の枠組みの中で高等レベルの資格に格付けられるレベル 4 の資格が全体の 2 割を占めており、QCF 資格より高い割合となっている。

図表 I - 1 4 NVQ の数 (レベル別) (2012 年)



出所：Ofqual Database より作成

2012 年 1 月 1 日時点での NVQ の総数が 80 と非常に少なくなっているのは、NVQ 資格の QCF 資格への移行が進んでいることを示している。

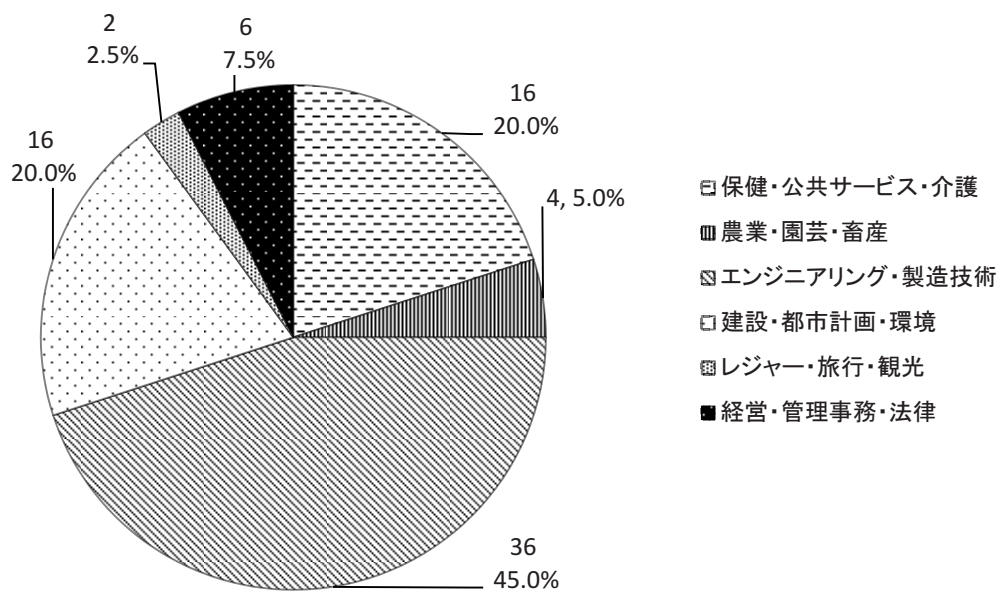
2. NVQ の分野別構成

図表 I-15 に分野別の NVQ の数を示す。

最も多いのは「エンジニアリング・製造技術」分野の資格の 36 で、NVQ 全体の 45.0% を占めている。2 番目は、「保健・公共サービス・介護」分野と「建設・都市計画・環境」分野の資格の 16 で NVQ 全体の 20.0% を占めている。以下、「経営・管理事務・法律」分野の資格で 6 (同 7.5%)、「農業・園芸・畜産」分野の資格の 4 (同 5.0%)、「レジャー・旅行・観光」分野の資格の 4 (2.5%) となっている。

NVQ では、「エンジニアリング・製造技術」分野の資格が大きな割合を占めており、他の分野の NVQ が QCF 資格への移行を進めている中であっても、まだ、多くの利用者がいることが推測される。

図表 I - 1 5 NVQ の数（分野別）（2012 年）



出所：Ofqual Database より作成

第5章 資格の普及率

第1節 QCF 資格の普及率

QCF 資格は、資格の分野、資格のサイズ (Award、Certificate、Diploma)、資格のレベルによって区分されている。以下、それぞれの区分ごとの取得者数を見つめる。そのことによって、QCF 資格の普及状況を推測することができる。

1. 資格のサイズ別取得者数

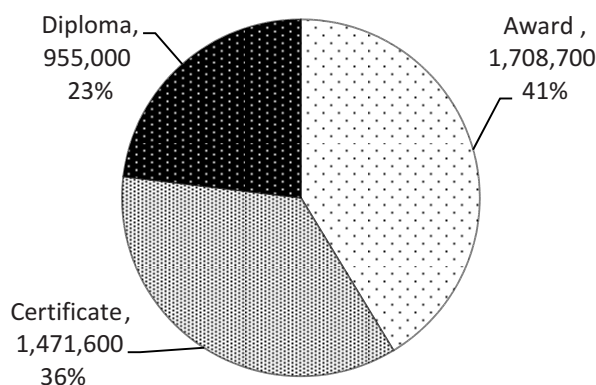
図表 I-16 に 2012 年における QCF 資格のサイズ別の取得者数を示す。

取得者数が最も多いのは Award の約 171 万人で取得者数全体の 4 割を占めている。

次いで Certificate の 147 万人で取得者数全体の 36%を占めている。一方、Diploma の取得者数は 95.5 万人で全体の 23%である。傾向としては、資格サイズが大きくなるにしたがって取得者数が減少していることがわかる。資格のサイズが大きくなると、必然的に資格を取得するための学習・訓練時間が多くなり、取得するまで長期間を要することが Diploma の取得者数に影響しているのかもしれない。

これとは反対に、資格のサイズが小さい Award は、学習・訓練時間数が少なく、1 日から数日の学習と修了時のペーパーテストで取得できるものも多くあり、多くの者が取得しているといえる。

図表 I - 1 6 2012 年における QCF 資格のサイズ別取得者数 (人)



出所：Vocational Qualifications Database より作成

2. レベル別取得者数

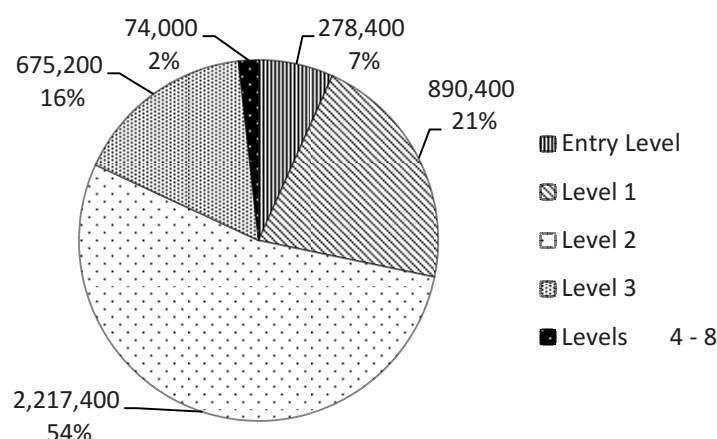
まず、どのレベルの QCF 資格が多く取得されているのか、レベル別の取得者数の構成を見つめる。図表 I-17 に 2012 年における QCF 資格のレベル別取得者数を示す。

取得者数が最も多いのはレベル2の221万7,400人で取得者数全体の54%を占めている。次いで、レベル1の89万400人で取得者数全体の21%を占めている。以下、レベル3の67万5,200人（同16%）、エントリー・レベルの27万8,400人（同7%）、レベル4の74,000人（同2%）となっている。

注目する点は、エントリー・レベルとレベル1の取得者数が取得者数全体の約3割を占めていることである。そして、エントリー・レベル～レベル2までの取得者数が全体の8割強を占めており、QCF資格が、政府が掲げる低技能者の能力開発、雇用戦略として機能していることがうかがえる。

一方、レベル3以上の取得者数は取得者数全体の2割弱（18%）にとどまっている。

図表 I - 17 2012年におけるQCF資格のレベル別取得者数（人）



出所：Vocational Qualifications Database より作成

3. 分野別取得者数

図表 I-18 は 2012 年における QCF 資格の分野別の取得者数を示す。

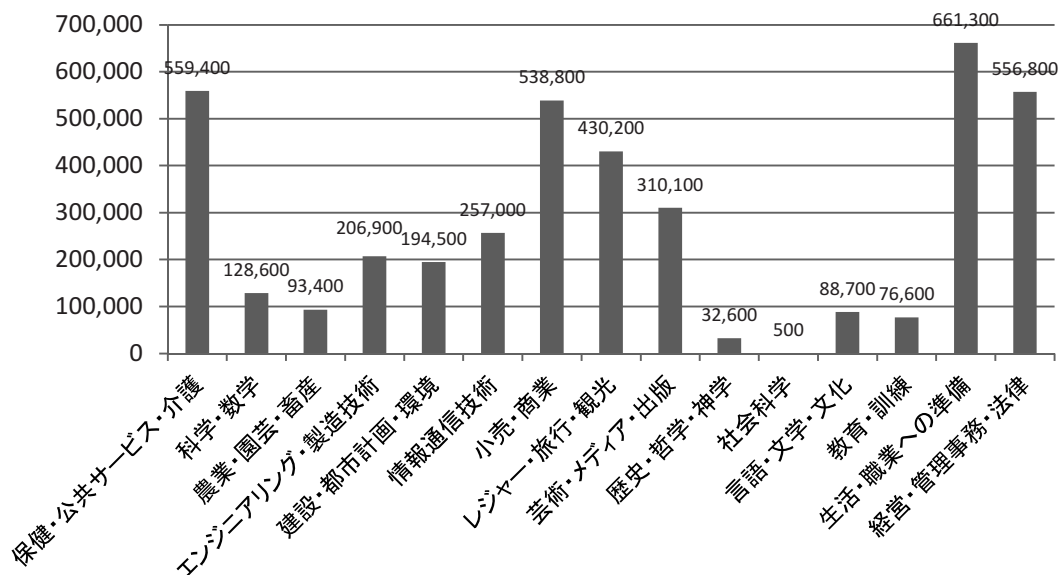
取得者数が最も多い分野は、「生活・職業への準備」の66万1,300人で取得者数全体（413万5,400人）の16.0%を占めている。2番目に多いのは「保健・公共サービス・介護」の55万9,400人で取得者数全体の13.5%を占めている。

以下、「経営・管理事務・法律」の55万6,800人（同13.4%）、「小売・商業」の53万8,800人（同13.0%）、「レジャー・旅行・観光」の43万200人（同10.4%）、「芸術・メディア・出版」の31万100人（同7.5%）、「情報通信技術」の25万7,000人（同6.2%）、「エンジニアリング・製造技術」の20万6,900人（同5.0%）、「建設・都市計画・環境」の19万4,500人（同4.7%）となっている。

「生活・職業への準備」分野のQCF資格は、失業者も含めて職に就こうとするすべての人が対象となるもので、取得者数が多いのは対象者が多いことに起因している。また、

学校から職業へ、失業給付から雇用へという目標を目指す政府の雇用戦略に合致したもののといえる。

図表 I - 1 8 2012 年における QCF 資格の分野別取得者数（人）



出所：Vocational Qualifications Database より作成

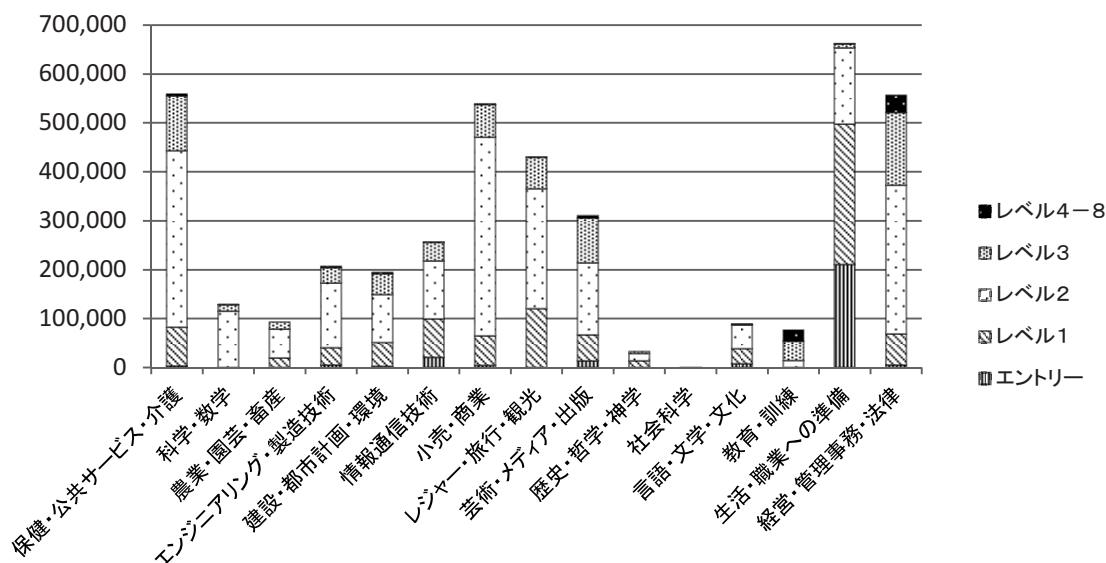
図表 I-19 は分野別の QCF 資格のレベル別の構成を示したものである。図表より、次のような特徴があることがわかる。

教育・訓練分野の資格は、レベル 3 及びレベル 4 のものが多く含まれている。

一方、生活・職業への準備に関するものは、エントリーレベル、レベル 1 及びレベル 2 のもので占められており、職業に就く準備段階の資格で構成されていることがうかがえる。

これら 2 分野以外の資格は、圧倒的にレベル 2 のものによって占められている。

図表 I - 19 2012 年における分野別 QCF 資格のレベル構成 (人)



出所：Vocational Qualifications Database より作成

4. 直近3年間における QCF 資格取得者数累計と QCF 資格の普及率

図表 I-20 に直近3年間(2010~2012年)における QCF 資格の分野別取得者数累計を示す。

最も取得者数累計が多いのは、「生活・職業への準備」分野の118万1,100人で、全分野の取得者数累計(709万1,900人)の16.7%を占めている。

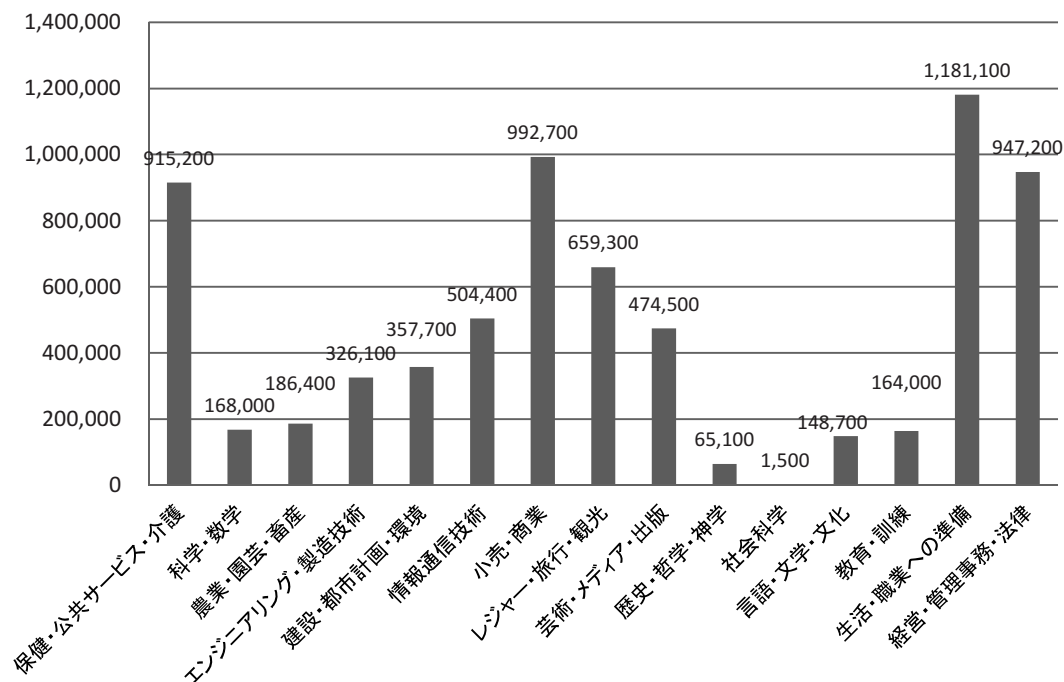
次いで、「小売・商業」分野の99万2,700人(同14.0%)で、以下、「経営・管理事務・法律」分野の94万7,200人(同13.4%)、「保健・公共サービス・介護」分野の91万5,200人(同12.9%)、「レジャー・旅行・観光」分野の65万9,300人(同9.3%)、「情報通信技術」分野の50万4,400人(同7.1%)、「芸術・メディア・出版」分野の47万4,500人(同6.7%)、「建設・都市計画・環境」分野の35万7,700人(同5.0%)、「エンジニアリング・製造技術」分野の32万6,100人(同4.6%)等である。

「生活・職業への準備」、「小売・商業」、「経営・管理事務・法律」及び「保健・公共サービス・介護」の4分野で全分野の取得者数累計の約6割(57.0%)を占めている。

「科学・数学」、「農業・園芸・畜産」、「言語・文学・文化」及び「教育・訓練」分野の QCF 資格取得者数は比較的少なく、全体の2%台である。

そして、「歴史・哲学・神学」分野及び「社会科学」分野の QCF 資格取得者数は非常に少なく1%未満である。

図表 I - 20 QCF 資格の分野別取得者数累計 (2010~2012 年)



出所：Vocational Qualifications Database より作成

次に、QCF 資格の分野別取得者数累計が、関連する産業分野の雇用者数に対してどれ位の割合を占めているのかという普及率の観点から考察する。

図表 I-21 は、イギリスの主な産業別雇用者数（2012 年 7～9 月時点）と当該分野の QCF 資格の取得者数累計（2010～2012 年）及び 2012 年の QCF 資格取得者数を示す。

直近 3 年間（2010～2012 年）の QCF 資格取得者数累計で見て、雇用者数に占める QCF 資格取得者数累計の割合が最も高い関連業種は、「経営・管理・支援サービス業」で 91.4%を占めている。次いで「情報通信」の 54.1%、以下、「建設業」の 27.3%、「卸売・小売業及び自動車修理業」の 26.9%、「保健・公共サービス業」の 25.3%、「製造業」の 12.1%となっている。

ちなみに、全産業の雇用者総数に占める QCF 資格取得者数累計の割合は 28.1%である。

上述のことから、少なくとも累計ベースでは、「経営・管理・支援サービス業」で 9 割の人が、「情報通信業」では 5 割強の人が、そして、「建設業」、「卸売・小売業及び自動車修理業」及び「保健・公共サービス業」では 4 人に 1 人が、「製造業」では 8 人に 1 人が QCF 資格を取得している計算になる。全体的にみると、QCF 資格の普及率は非常に高い。そして、この資格が 2009 年に導入されたことを考えると、短期間に大幅に普及している資格であるといえる。

次に、2012 年単年度の QCF 資格の普及率（雇用者数に占める取得者数の割合）について見てみる。普及率が最も高いのは「経営・管理・支援サービス業」で 53.7%である。

以下、「情報通信業」の 27.5%、「保健・公共サービス業」の 15.5%、「建設業」の 14.9%、「卸売・小売業及び自動車修理業」の 14.6%、「製造業」の 7.6%となっている。

産業全体への普及率は 16.4%で非常に高く、2012 年は 6 人に 1 人が QCF 資格を取得している計算になる。

図表 I - 2 1 主な産業別雇用者数及び QCF 資格取得者数

産業分野	製造業	建設業	卸売・小売業及び自動車修理業	情報通信	経営・管理・支援サービス	保健・公共サービス	全産業
雇用者数(千人)(2012年7月～9月時点)(A)	2,704	1,308	3,688	933	1,036	3,620	25,211
QCF資格の分野	エンジニアリング・製造技術	建設・都市計画・環境	小売・商業	情報通信技術	経営・管理事務・法律	保健・公共サービス・介護	全分野
QCF資格取得者累計(人)(2010～2012年)(B)	326,100	357,700	992,700	504,400	947,200	915,200	7,091,900
普及率(%) (B/A)	12.1	27.3	26.9	54.1	91.4	25.3	28.1
QCF資格取得者数(人)(2012年)(C)	206,900	194,500	538,800	257,000	556,800	559,400	4,135,400
単年度普及率(%) (C/A)	7.6	14.9	14.6	27.5	53.7	15.5	16.4

注：取得者累計は複数の資格を取得した者を重複してカウントしている。このため普及率は各業種における雇用者の資格取得者比率を厳密に示すものではなく、参考値であることに留意が必要。

出所：Ofqual 及び Labour Force Survey より作成

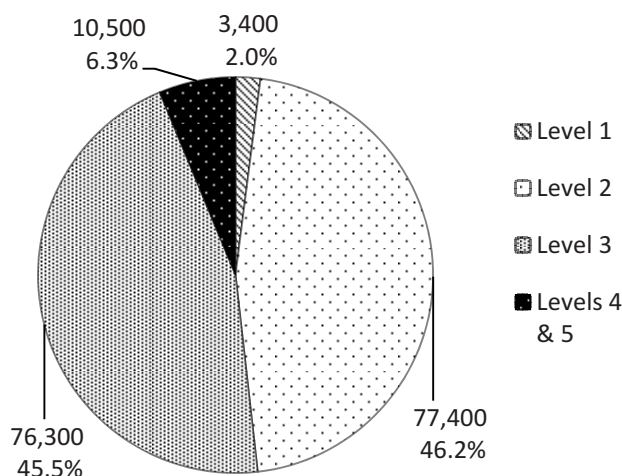
第 2 節 NVQ の普及率

ここでは、NVQ の取得者数をパラメータとして、NVQ の普及率を考察することとする。

1. レベル別の取得者数

まず、どのレベルの NVQ が多く取得されているのか、レベル別の取得者数の構成を見てみる。図表 I-22 に 2012 年における NVQ のレベル別取得者数を示す。

図表 I - 2 2 2012 年における NVQ のレベル別取得者数 (人)



出所：Vocational Qualifications Database より作成

取得者数が最も多いのはレベル 2 の 7 万 7,400 人で取得者数全体の 46.2% を占めている。次いで、レベル 3 の 7 万 6,300 人で 45.5% を占めている。レベル 4 と 5 の取得者数は 1 万 500 人で取得者数全体の 6.3% を占めている。一方、レベル 1 の取得者数は 3,400 人で全体の 2% を占めているにすぎない。NVQ に関しては、レベル 2 とレベル 3 の取得者数の合計は取得者数全体の 9 割強 (91.7%) を占めており、利用者の多くはこれら 2 つのレベルに集中していることがわかる。

2. 分野別の取得者数

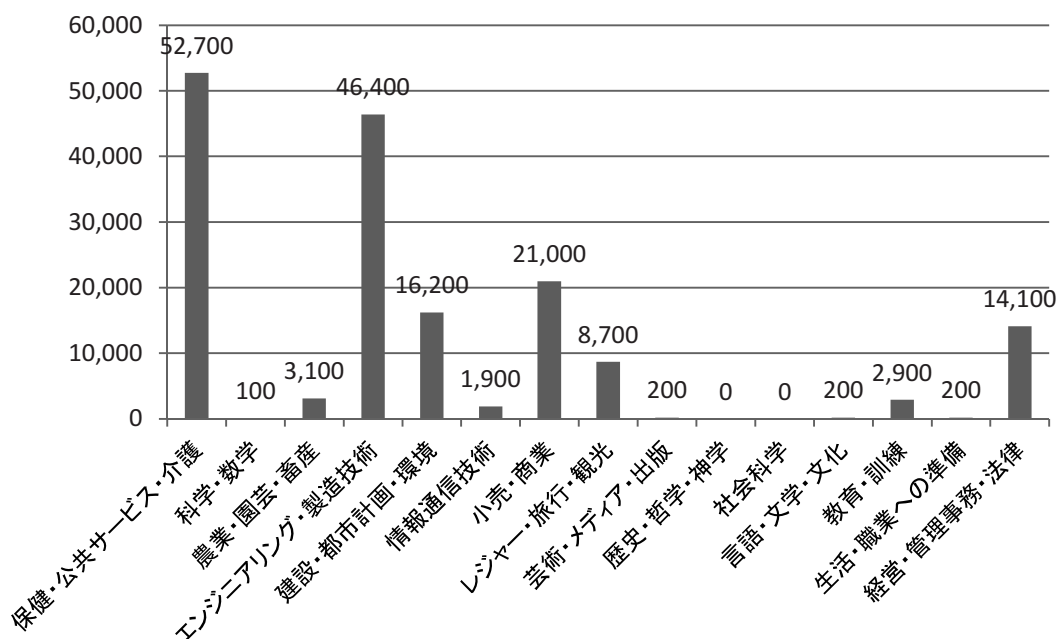
図表 I-23 に 2012 年における NVQ/SVQ⁸ の分野別の取得者数を示す。

取得者数が最も多い分野は、「保健・公共サービス・介護」の 5 万 2,700 人で取得者数全体 (16 万 7,600 人) の 31.4% を占めている。二番目に多いのは「エンジニアリング・製造技術」の 46,400 人で全体の 27.7% を占めている。以下、「小売・商業」の 2 万 1,000 人 (取得者数全体の 12.5%)、「建設・都市計画・環境」の 1 万 6,200 人 (同 9.7%)、「経営・管理事務・法律」の 1 万 4,100 人 (同 8.4%) となっている。

「保健・公共サービス・介護」と「エンジニアリング・製造技術」の 2 つの分野で、取得者数全体の約 6 割 (59.1%) を占めており、利用者にとっては人気の高い資格であることを示している。

⁸ スコットランドの職業資格制度で、NVQ と類似の制度。

図表 I - 2 3 NVQ/SVQ の分野別取得者数 (2012 年、人)



出所：Vocational Qualifications Database より作成

3. 取得者数から見た分野別のレベル構成

NVQ 全体で見た取得者数のレベル構成は、レベル 2 が取得者数全体の 46.2% を、そして、レベル 3 が 45.5% を占める割合であったが (図表 I-22 参照)、ここでは NVQ の分野別のレベル構成について見てみる。図表 I-24 に取得者数から見た分野別 NVQ のレベル構成を示す。

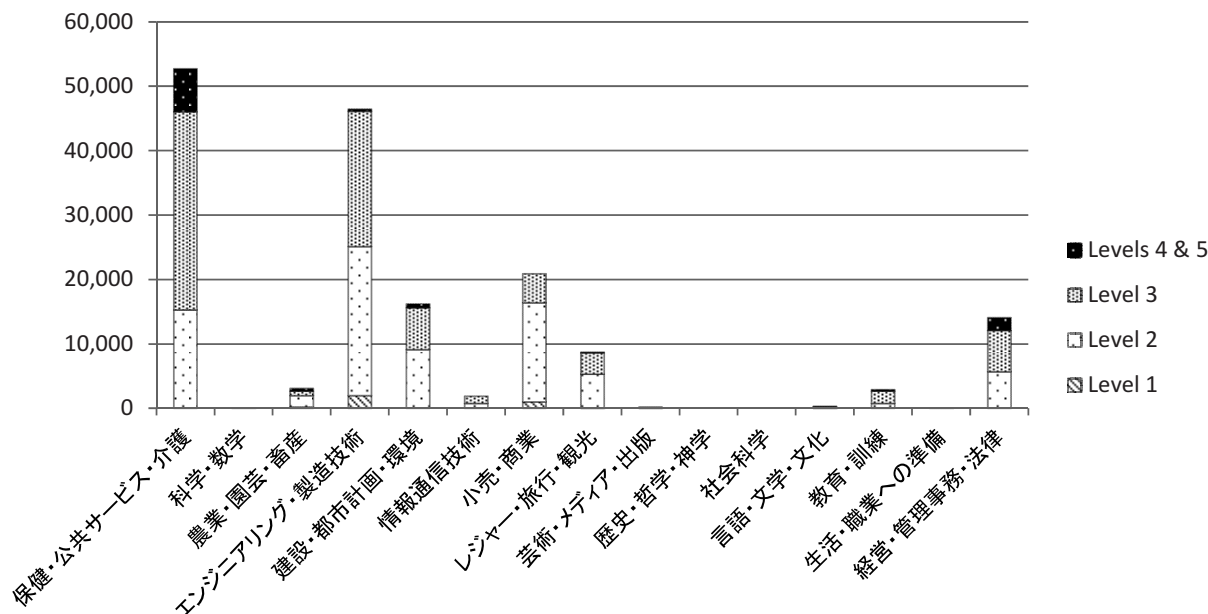
「保健・公共サービス・介護」分野では、レベル 4&5 の取得者数は 6,700 人で当該分野全体の取得者数 (5 万 2,700 人) の 12.7% を占めている。レベル 3 は 3 万 700 人で 58.3%、レベル 2 は 1 万 5,300 人で 29.0% である。「エンジニアリング・製造技術」分野では、レベル 4&5 の取得者数は 300 人で当該分野全体の取得者数 (4 万 6,400 人) の 0.6% 占めている。レベル 3 は 2 万 1,000 人 (同 45.3%)、レベル 2 は 2 万 3,100 人 (同 49.8%) である。

「建設・都市計画・環境」では、レベル 4&5 の取得者数は 600 人で当該分野全体の取得者数 (1 万 6,200 人) の 3.7% 占めている。レベル 3 は 6,500 人 (同 40.1%)、レベル 2 は 9,100 人 (同 56.2%) である。

「経営・管理事務・法律」分野では、レベル 4&5 の取得者数は 2,000 人で当該分野全体の取得者数の 14.2% 占めている。レベル 3 は 6,400 人 (同 45.4%)、レベル 2 は 5,700 人 (同 40.4%) である。「小売・商業」分野では、レベル 3 は 4,500 人 (同 21.4%)、レベル 2 は 1 万 5,400 人 (同 73.3%) で、他の分野に比べてレベル 2 の資格を取得する人が非常に多いという特徴がある。

レベル 4&5 の取得者数が比較的多い分野は、「保健・公共サービス・介護」と「経営・管理事務・法律」であり、他の分野はレベル 3 及びレベル 2 の資格を取得する人が多いことを示している。

図表 I-24 取得者数から見た分野別 NVQ のレベル構成（2012 年、人）



出所：Vocational Qualifications Database より作成

4. 直近 7 年間における NVQ 取得者数累計と NVQ の普及率

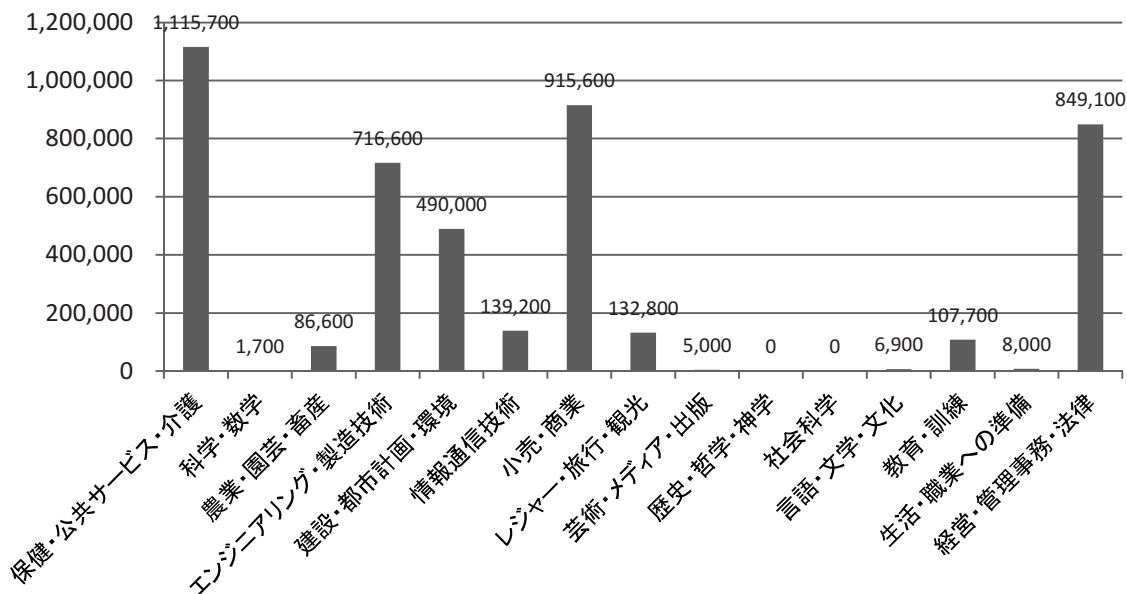
図表 I-25 に直近 7 年間（2006～2012 年）における NVQ（フル規格）の分野別取得者数累計を示す。

最も取得者数累計が多いのは、「保健・公共サービス・介護」分野の 111 万 5,700 人で、全分野の取得者数累計（457 万 4,900 人）の 24.4%を占めている。

次いで、「小売・商業」分野の 91 万 5,600 人（同 20.0%）で、以下、「経営・管理事務・法律」分野の 84 万 9,100 人（同 18.6%）、「エンジニアリング・製造技術」分野の 71 万 6,600 人（同 15.7%）、「建設・都市計画・環境」分野の 49 万人（同 10.7%）である。上記 5 分野において資格取得者数が圧倒的に多く、全分野の取得者数累計の 89.4%を占めている。

一方、「情報通信技術」分野、「レジャー・旅行・観光」分野及び「教育・訓練」分野は 10 万人台にとどまっており、全分野の取得者数累計に対する割合は 2.4%～3.0%に過ぎない。

図表 I - 2 5 NVQ（フル規格）の取得者数の累計（2006～2012年、人）



出所：Vocational Qualifications Database より作成

次に、NVQの分野別の取得者数累計が、関連する産業分野の雇用者数に対してどれ位の割合を占めているのかという普及率の観点から考察する。

図表 I-26 は、イギリスの主な産業別雇用者数（2012年7～9月時点）と当該分野のNVQ取得者数累計（2006～2012年）及び2012年のNVQ取得者数を示す。

直近7年間（2006～2012年）のNVQ取得者数累計で見て、雇用者数に占めるNVQの取得者数累計の割合が最も高い関連業種は、「経営・管理・支援サービス業」で81.9%を占めている。次いで「建設業」の37.5%、以下、「保健・公共サービス業」の30.8%、「製造業」の26.5%、「卸売・小売業及び自動車修理業」の24.8%、「情報通信」の14.9%である。

ちなみに、全産業の雇用者総数に占めるNVQの取得者数累計の割合は18.2%である。

上述のことから、累計ベースでは、「経営・管理・支援サービス業」で8割の人が、「建設業」及び「保健・公共サービス業」では3人に1人が、「製造業」及び「卸売・小売業及び自動車修理業」では4人に1人がNVQを取得している計算になり、NVQの普及率は非常に高いといえる。

次に、2012年単年度のNVQの普及率（雇用者数に占める取得者数の割合）について見てみる。普及率が最も高いのは「製造業」で1.7%である。以下、「保健・公共サービス業」の1.5%、「経営・管理・サービス支援業」の1.4%、「建設業」の1.2%、「卸売・小売業及び自動車修理業」の0.6%、「情報通信」の0.2%となっている。そして、産業全体への普及率は0.7%である。

図表 I - 2 6 イギリスの主な産業別雇用者数及び NVQ 取得者数

産業分野	製造業	建設業	卸売・小売業及び 自動車修理業	情報通信	経営・管理・支 援サービス	保健・公共サー ビス	全産業
雇用者数(千人)(A)	2,704	1,308	3,688	933	1,036	3,620	25,211
NVQの分野	エンジニアリン グ・製造技術	建設・都市計 画・環境	小売・商業	情報通信 技術	経営・管理事 務・法律	保健・公共サー ビス・介護	全分野
NVQ取得者累計(人) (2006~2012年)(B)	716,600	490,000	915,600	139,200	849,100	1,115,700	4,574,900
普及率(%) (B/A)	26.5	37.5	24.8	14.9	81.9	30.8	18.2
NVQ取得者数(人)(2012 年)(C)	46,400	16,200	21,000	1,900	14,100	52,700	167,700
単年度普及率(%) (C/A)	1.7	1.2	0.6	0.2	1.4	1.5	0.7

注：取得者累計は複数の資格を取得した者を重複してカウントしている。このため普及率は各業種における雇用者の資格取得者比率を厳密に示すものではなく、参考値であることに留意が必要。

出所：Ofqual 及び Labour Force Survey より作成

第3節 日本における技能検定試験の普及状況（技能検定合格者数から見た普及率）

技能検定と NVQ の普及率の比較について考察する前に、日本において技能検定がどれ位普及しているのかを見てみる。技能検定試験制度は 1960 年に制定された制度である。制度が施行されて半世紀が過ぎており、製造業、建設業、金融・保険業、サービス業等において関連する技能検定職種が開発され、労働者の職業技能評価に活用されている。2012 年 4 月時点で技能検定職種は 129 職種あり、技能労働者の中で広く普及している資格の 1 つとなっている。

図表 I-27 は、日本の産業別雇用者数と当該産業における関連職種の技能検定合格者数累計（2006～2012 年）及び 2012 年の技能検定合格者数である。

直近 7 年間（2006～2012 年）の技能検定合格者数累計で最も多いのは、「金融・保険業関連」の職種で 91 万 3,312 人である。当該関連産業の雇用者数に占める技能検定合格者数累計の割合（普及率）は 59.3%である。「製造業関連」の職種の技能検定合格者数累計は 64 万 9,397 人で普及率は 6.6%である。また、「建設業関連」の職種の技能検定合格者数累計は 20 万 8,426 人で普及率は 5.1%、「情報通信、サービス業関連等」の職種の技能検定合格者数累計は 11 万 7,747 人で普及率は 1.3%である。なお、全産業への普及率は 3.4%である。

次に、2012 年単年度における技能検定の普及率（雇用者数に占める技能検定合格者数の割合）を見てみる。

普及率が最も高いのは「金融・保険業関連」職種の 9.2%である。次いで「製造業関連」職種の 1.0%、「建設業関連」職種の 0.7%、「情報通信、サービス業関連等」職種の 0.2%となっている。全技能検定職種の普及率は 0.5%である。

図表 I - 27 日本の産業別雇用者数と技能検定合格者数

産業分野	製造業	建設業	金融・保険業	情報通信業、宿泊・飲食 サービス業、サービス業 (他に分類されないもの)	全産業
雇用者数(単位:万人) (A)	978	410	154	910	5,497
技能検定職種	製造業関連	建設業関連	金融・保険関 連	情報通信、サービス業関 連等	全職種
技能検定合格者累計(単位:人) (2006~2012年) (B)	649,397	208,426	913,312	117,747	1,888,882
普及率(% (B/A)	6.6	5.1	59.3	1.3	3.4
技能検定合格者数(2012年) (C)	96,953	27,760	142,165	17,798	284,676
単年度普及率(% (C/A)	1.0	0.7	9.2	0.2	0.5

注：産業別雇用者数に占める技能検定合格者数の割合（普及率）については、当該技能検定職種がいわゆる成長産業に属するのか成熟産業に属するのか、また、当該検定職種が整備されてからの経過年数にも影響を受けるものである。加えて、複数の資格を取得した者については重複してカウントしている。このため、上記の数値は、あくまで NVQ、QCF との比較する上での参考値であることに留意が必要。なお、厚生労働省の「労働市場政策における職業能力評価制度のあり方に関する研究会」において、技能検定都道府県方式（114 職種）で現に就労している技能士数の実数（死亡者数、引退者数、複数等級・職種・作業の保有者数を控除）を一定の仮定の下、推計したところ、約 111 万人、当該者の当該分野における職業分類の就業者に占める割合は約 8.5%であった（2013 年 9 月現在）。

出所：労働力調査「第 12 回改定日本標準産業分類別雇用者数」及び JAVADA Database より作成

次に、NVQ と技能検定試験がそれぞれ関連する産業において、どれ位普及しているのかその度合いを見てみる。

図表 I-28 に NVQ と技能検定試験の普及率（2006～2012 年の累計と 2012 年単年度）の比較を示す。

両者に共通する製造業と建設業について見ると、NVQ の普及率が 26.5%、37.5%であるのに対して、技能検定試験の普及率は 6.6%、5.1%である。これらの数値は、技能検定試験の普及率が、NVQ の普及率の 1/7~1/4 にとどまっていることを示している。全産業の普及率は、NVQ が 18.2%、技能検定試験は 3.4%であり、全産業でも技能検定試験の普及率は、NVQ の約 1/5 に過ぎない。

製造業と建設業における 2012 年単年度の普及率は、NVQ が 1.7%、1.2%であるのに対して技能検定試験は 1.0%、0.7%で、技能検定試験の普及率は NVQ の約 6 割である。

全産業で見ると、NVQ の普及率は 0.7%で、技能検定試験の普及率は 0.5%である。

全産業における技能検定試験の普及率は、NVQ の約 7 割となっている。

一方で、技能検定試験及び NVQ とともに、普及率が非常に高い業種があるという特徴がある。

NVQ に関しては、経営・管理・支援サービス業において 81.9%という驚異的な普及率を示している。しかし、単年度の普及率は 1.4%で、それほど高い数値ではない。

技能検定試験に関しては、金融・保険業における普及率は 59.3%で、他の業種に比べて飛びぬけて高い値を示している。また、2012 年の単年度の普及率は 9.2%で、1 年間に金融・保険業の雇用者数の約 1 割が技能検定試験に合格している計算になる。この普及率は驚異的で、NVQ における製造業（単年度普及率 1.7%）及び経営・管理・支援サービス業（同 1.4%）の単年度普及率の 5～6 倍になっている。

図表 I - 2 8 NVQ と技能検定試験の普及率の比較 (%)

産業分野	製造業	建設業	金融・保険業	情報通信業、宿泊・飲食サービス業、サービス業 (他に分類されないもの)	保健・公共サービス	経営・管理・支援サービス	全産業
NVQの普及率	26.5	37.5	---	-----	30.8	81.9	18.2
技能検定試験の普及率	6.6	5.1	59.3	1.3	---	---	3.4
2012年単年度NVQの普及率	1.7	1.2	---	-----	1.5	1.4	0.7
2012年単年度技能検定試験の普及率	1.0	0.7	9.2		---	---	0.5

第 4 節 資格の活用度⁹

資格の活用度は、資格の種類や産業分野ごとに大きな違いがある。

建設分野やエンジニアリング・製造業分野では、NVQ が広く活用されている。例えば、SEMTA が関係する産業分野の企業数は 12 万 8,000 社、そこで働いている全雇用者数は約 166 万人である。ここでは、すべての企業で、SEMTA が開発した NOS に基づいて作られた資格を活用しており、ほとんどの雇用者が何らかの形で、これらの資格を活用しているとのことである。アプレンティスシップに関しては、NVQ を取り入れた内容構成にして実施されている。

保健、介護、保育、教育の分野で働く人は、最低レベル 2 以上の公的資格を持つことが義務付けられている関係で、QCF 資格や NVQ 等を取得し、活用している人が多い。

資格授与機関 (AO) である公認環境衛生協会 (Chartered Institute of Environmental Health : CIEH) では、1 日～数日の研修受講とペーパー試験をセットにした知識ベースの QCF 資格 (食品の安全、保健と安全、火災安全、応急手当等の資格) を提供している。これらの資格は産業分野を問わず、従業員に共通する基本的な資格であるため、多くの

⁹ 本節及び次節は、現地ヒアリングにより得られた情報をまとめている。既存の調査等に基づくより詳細な活用実態については、第 II 部を参照のこと。

企業で活用されている。

自動車産業分野の SSC である自動車産業協会 (The Institute of Motor Industry: IMI) が関係する自動車産業分野では、アプレントイスシップには、コンピテンス・ベースの QCF 資格を活用し、従業員の教育訓練には業界で開発した資格 (NOS に基づいて開発されているが、QCF に格付けされていない資格) を活用している企業が多い。

小売業は、QCF 資格を活用している割合も高いが、企業が独自に従業員の訓練・研修を実施しているところが多く、小売業界の中で通用する業界資格を設定して活用している。

IT 産業では、公的資格よりもマイクロソフトの資格の方が役に立つということで、それらの資格を活用している企業が多いとのことである。

(SEMTA、IMI、UKCES、CIEH のヒアリング調査より。付属資料参照)

第 5 節 資格の利用法

Ofqual が認可している資格、産業分野が独自に設定している資格を問わず、企業における資格の利用法は、従業員の教育訓練と関連づけて使われている場合が一番多い。訓練の結果が資格の取得につながる場合もあるし、そうでない場合もあるとのことである。

しかし、一般に、従業員を対象とした訓練の内容は、NOS に基づいて作られることが多い。NOS は、また、資格を構築する際の基準でもある。結果として、訓練の内容と資格の内容が関連する場合が多く、訓練を無事修了すると資格の取得に結びつく場合が多くあるということになる。この他、資格の取得を目的とした従業員の訓練 (クレーンやフォークリフトの操作など) も実施されている。

従業員訓練による資格の取得は、従業員の向上意欲への動機づけと定着に結びつくということで、訓練修了後、何がしかの資格取得に結びつくように工夫されている。

また、従業員の教育訓練に熱心に取り組み、従業員が資格を取得してキャリアを積み上げている企業には、良い人材が集まるということで、企業の教育訓練は企業の知名度アップにもつながっている。

(Sumitomo Demag 社、IMI、UKCES のヒアリング調査より。付属資料参照)

次に、企業が新人を採用する場合、資格の有無はどれ位重要視されるのかをしてみる。

図表 I-29 は企業が学校・カレッジ卒業生を採用する際に最も重視する項目を示す。

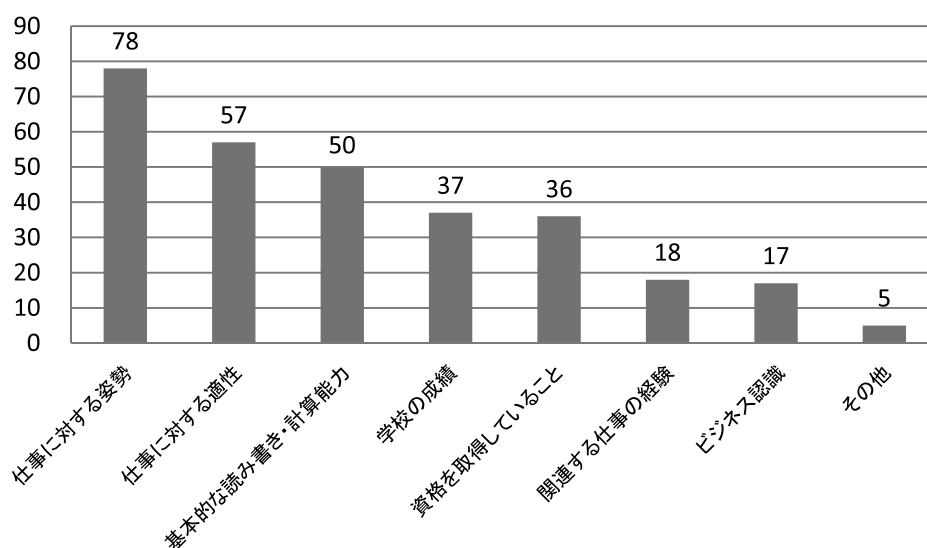
企業が採用する際に最も重視する項目は、「仕事に対する姿勢」で約 8 割 (78%) の企業があげている。次いで高いのが、「仕事に対する適性 (57%)」、「基本的な読み書き・計算能力 (50%)」で 5 割以上の企業が最も重視するとしている。一方、「資格を取得していること」を最も重視する企業の割合は 36% で、「学校の成績 (37%)」を最も重視する企業の割合と同程度ある。

企業においては、仕事に対する熱意、取り組む姿勢や仕事に向いている性格かどうか

を採用の際に最も重視し、判断材料にしていることがうかがえる。

資格取得の有無は、前者の 3 項目に比べると重視される割合が低くなるが、それでも 4 割弱の企業では学校・カレッジ卒業生を採用する際に重視するとしており、学校の成績と同レベルに捉えている。

図表 I - 29 企業が卒業生を採用する際に最も重視する項目 (%)



出所：CBI/Pearson education and skills survey 2013

また、企業や SSC の調査からも、企業が従業員を採用する際には、資格の有無をある程度重視していることがわかった。

例えば、Sumitomo Demag 社では、求人広告には、こういう資格は必要だとか、アプレンティスシップを修了していることといった条件は出さないが、機械や電気の専門知識を必要とする技術サービスのスタッフにアプレンティスシップ修了生を採用している。

また、IMI でのヒアリング調査でも、自動車産業分野の雇用主の多くは、継続教育カレッジ等で訓練を受けて何がしかの資格 (BTEC 資格¹⁰など) を持っている者を採用する傾向が強いとのことである。

企業にとっては、資格を持っていることは、採用後、OJT で育成する際に必要な最低限の知識、技能を持っているとの判断材料にしているものと推察される。

¹⁰ 資格授与機関 Edexcel の提供する職業資格。